



91100-16

37

I-0461

0027

情報部第一課

三特外必第セ。瑞

昭和十三年二月一日

京都府知事 鈴木 敬一

昭和十三年二月一日 瑞

歐亞局

内務大臣 米次信正殿
外務大臣 廣田弘毅殿
文部大臣 木戸幸一殿
警視庁 北海道 神奈川 宮城 愛知 石川 島根
大坂 兵庫 岡山 広島 福岡 熊本 鹿児島
各府府 縣長 官 殿

「ヒットラー、ユーゲント」分團長
、來往 動靜ニ関スル件

右ハ客月二十五日午後十時四十五分京都駅着列車
ニテ
ヒットラー、ユーゲント分團長 ラインホルト・シユルツェー (32)

日独文化協会副主事

ワルテル・ドーナツト (39)

及ビ日本少年団理事長ニ荒伯其他ヲ同伴名古屋ヨ
リ入洛府、市、会議所各代表等ノ迎ヲ受ケ都ホ
テルニ宿泊翌二十六日二十七日、西日ハ左記日程
ニ依リ講演並視察ヲ遂ゲ同二十八日午後八時三十
五分京都駅発列車ニテ一行ト共ニ岡山ニ向ヘルカ
ニ警保局ハ貴一長ヨリ通牒ノ次第モ有之滞洛中一行
ニ対シテハ係員ヲシテ相當便宜供与セシメ置ケリ
右及申ヘ通一報候也

記

一月二十五日 午後十時四十五分入洛

府市會議所青少年團ノ歡迎ヲ受ケ都ホテルニ
宿泊

二十六日 一午前中御所、二條離宮、平安神宮ヲ參觀
一、午後一時ヨリ第三高等学校新總館ニ於テ別

S 91100-16

39

S 91100-16

38

37

I-0461

0028

二十七日

添ノ如キ講演会映画会ニ臨ミ午後五時般宿
休息

一、自午前九時四十分管下宇治菰道青少年赤十字
字團ノ歡迎分團訓練ヲ視察更ニ宇治鳳凰堂
見学

一、正午飯宿后市内觀光(神社佛閣参拜)

一、至午後六時三十分時京都ホテルニ於ケル府市会
議所主催ノ歡迎晚餐会ニ参席

一、至午後七時堀川高等女学校ニ於ケル講演会
映画会ニ参席(三高ニ於ケルト同様ノ講演
ヲ為ス)

二十八日

一、午前八時三十五分京都駅発列車ニテ府、市
、会議所、青少年團各委員ノ見送リヲ受ケ
岡山市ニ向ケ退治

91100-16

40



(11)

一、場所 第三高等學堂新築館内

一、開会挨拶

森 校長

吾國非常時局ニ當リ新興ドイツニ非常ナル衝トヲ持
ツ吾々ハ唯今ヒットラーユーゲントノ燃ユルカ如キ勇氣ト
熱ニ融レルコトヲ最モ欣快トスルモノデアル

一、紹介

日本少年團理事長 二荒 伯爵

ドーナート氏以前高島高教教授トシテ八年間日本
滞在シ現在日独文化協会副主事ノ職ニアリ

シュツエー氏ハ独逸青年年ノ交換トシテ冰雪道セラレタル
方デアル

シュツエー氏ヨリ、ヒットラーユーゲントノ使ヘル活動ニ
テ各諸カイルカ独逸ノ口民社会主義ト我國ノ君
口体トハ差異アリ彼我混同セヌ様深ク判断シテ静
聴シテ欲シイト希望ス

一、ドイツナチス主義ノ根本觀念 ドクトル、ドーナート
独逸民族社会主義ノ起因ト如何ナルモノナルカヲ説

91100-16

41



I-0461

0029

情報部 第一課

昭和十三年二月二日 接受

特外秘第 三六一 号

昭和十三年二月二日

廣島縣知事 富田愛次郎

亞米利加局

内務大臣 末次信正殿
外務大臣 廣田弘毅殿
關係廳府縣長官殿

歐亞局

「ヒットラー・ユーゲント」駐日代表一行ノ
動靜ニ関スル件

國籍 獨逸

住所 東京市牛込區仲野町三三

ヒットラー・ユーゲント(獨逸青年隊)

駐日代表 ラインホルト・シュルツエ

(1)

國籍 獨逸

住所 東京市大森區新井宿丁目三三八

日獨文化協會主事 ワルテル・ドナート

當 四十年

右一行ハ豫テ警保局長ヨリ通牒アリタル西日本講演旅行ノ日程通り去ルニ十九日午後二時一分廣島駅着列車ニテ來廣關係者ノ出迎ヲ受ケ直ニ市內島屋町「虎屋旅館」ニ投宿シタルガ帶廣中左記行事ヲ終リ本月一日午前五時四十五分乗車列車ニテ福岡市ヘ向ケ出發セリ尚一行中ニ日本少年團長子爵三島章道及日獨文化協會囑託八木沼清文部省囑託撮影技師

S

91100-16

43

S

91100-16

42

I-0461

00:30

小林興俊子同行セルガ三島子爵ノミ最島所島
島ホラルニ投宿セリ 其一行滞在軍特共
ハ言動無之ヌラインホルト、シュルチエ駐自表
往訪本縣特高課員ニ對シ左記意圖ヲ洩シ
タルニ付
右及申(通)報候也

記

(一) 滞廣中ノ行事

一二十九日午後三時ヨリ五時マテ

講演並映画 於廣島文理大學

演題

「ピットラト、エーゲン」ノ使命ト活動 シュルチエ

獨逸ナチス主義ノ世界觀 ドナート

(2)

映画

「ピットラト、エーゲン」ノ生活

一今日午後八時ヨリ九時マテ

講演並映画 於廣島陸軍幼年學校

演題映画 全前

一三十日(日曜)ニ付キ講演等ナシ 午前十時廣島

高等學校教師獨逸人「セツケル」來訪ヲ受ケ

連レダツテ全人方ニ赴キテ餐ヲ共ニシ歡談ス

一今日午後六時三十分ヨリ市内袋町精養軒ニ於

ケル廣島高等學校職員有志(三十名)ノ歡迎會

ニ臨席

右「ドナート」以前全校獨逸語教師タリ

關係ニ依ル



91100-16

45



91100-16

44

I-0461

0031

ハ三十一日午前十一時半ヨリ十二時半マデ精養軒ニ於
ル少年團廣島地方聯盟主催歡迎會ニ出席
ハ今日午後一時半自動車ニテ廣島市出奔嚴
島ニ到リ風光ヲ觀賞午後四時半飯店
ハ今日午後六時ヨリ九時マデ

講演並ニ映画 於廣島高等學校

演題映画 空前

因ニ以上ノ諸行事ニ関シテハ警保局長(貴官)ヨリ
通牒ノ次第又有之相當ノ便宜ヲ供與シ講演會
ハ本縣後援下ニ催シ多數ノ聴衆アリ又歡迎會
ニハ本職市長其ノ他ノ參會アリタリ

(2) 時局ニ對スルコシエニ意嚮

私ハ昨年七月「ヒットラー」ユリゲント「ヒットラー」青

年隊ノ駐日代表トシテ貴國ニ來朝シ即日三訂定
ハニケ年テアル任務ハ日獨兩國少年團ノ親善ト
提携ヲ促進ト貴國少年團ノ研究デアツラ今次
ノ旅行又以上ノ目的ニ外ナラス日本少年團ハ獨逸
ト其ノ構成ヤ遺リ方カ大分違ツテ居ルガ其ノ精
神ニ於テハ同一デアルト感じテ居ル私ハ來朝前ニ
ケ年間本國ニ於テ「ヒットラー」青年隊ノ外國部
長ヲシテ居タ關係上國際情勢ニハ深甚ノ興味
ヲ有スルモノデアルガ日支事變ハ日本カ起タネバナラ
ヌ必然性ガアツタ勿論日本ハ絕對ニ勝タネバナラ
ヌ万一敗ケタラ極メテ悲慘ナ獨逸以上ノ災厄ヲ
永久ニ残スデアロウ英國ハ絕對ニ起タネト云フ
ハ外情勢上ニ現在起テナイ弱味カアルカラアル



91100-16



91100-16

I-0461

0032

(4)

日本、好機會ヲツカシタスノダ、タイニヤルベキダ、
今や英國ハ然未ノ外交方針ヲ一変セネバ、ヤツヲ行
ケナイ旋回莫ニ立ツテ、非常ニ臆ンデ居ル事カ、國際
通ニハハツキリト分ル、今ヨカラ始メラレタ、シンガポール
ノ海軍演習ニ米國軍艦ガ参加シタ事ハ、米艦ガ
實際ニ演習ニ参加スルカ、或ハ單ニ陪觀スルカニ
依テ意義ガ違フガ、若シ前者デアルナラバ、ハム然タ
ル對日示威運動デアツテ、眞劍ニ對日共同作戦
ヲ研究シテ居ルモノト觀セザルヲ得ナイ、日本ハ香港
ヲ事實上封鎖スル積リナラ、同時ニ佛領「サイゴ
ン」ルト及ビ露領「トルキスタン」ヨリノ「コンミンター」
ルトトス共ニ封鎖セネバ、効果ガ無イ
香港ハ支那貿易ノ三分ノ一ノ出入港デアリ、英國ヨリ



91100-16

48

ノ輸入ノミデ、年額ニ百万磅ニ上ル、英國ノ重要據莫
デアアルガ支那ノ輸入武器ハ、寧「ロ」赤色「ルト」カラ入
ル方ガ重要デアリ、然カスガ蘇支國境ハ、最々廣ク深イ
カラ其ノ封鎖ハ不可能デアロツ、從テ日本ハ香港ニ
對シテハ無用ノ刺戟ハ加ヘザル方ガ得策デアアルマイカ
獨逸ノ殖民地返還問題ハ、現在英國ヲ中心ニ極
メテ微妙ナ動キヲ感取セラレルガ、卒直ニ言ヘバ、今年
中ニハ還サナイダ、ロツガ末年ハ、國際情勢ノ變化
ニ應ジテ、自鼻ガツクモノト思フ、然シ獨逸ハ南洋
統治領ニ對シテハ、全然返還要求ノ意志ガ無イ
事ヲ明言スル

以上



91100-16

49

I-0461

0033

情報部 第二課長

外秘第三四號

昭和十三年二月十五日

大阪府知事 池田 清

歐亞局

内務大臣 末次信正 殿
外務大臣 広田弘毅 殿

各府県長官 殿

駐日独逸國青年党代表一行ノ来往動静ニ関スル件

独逸ヒツトラー ユーゲン ト駐日代表 ラインホルト シュルツェ

Reinhold Schulte

日独文化協會副主事

ドクトル フルテル ドーナツト
Dr. Walter Donat

右一行ノ講演旅行ニ関シテハ予テ内務省警保局長(貴賓)ヨリ通牒

分類 J 1.10.0.4

ニ接シ注意中ノ処本月十二日午前七時十七分大阪駅着列車ニテ日

独文化協會主事友枝高彦ニ伴ハレテ松江ヨリ来阪石黒當府社會教

育課長井上少年團大阪地方聯盟理事長外青年團代表三十数名

ノ出迎ヲ受ケ直チニ新大阪ホテルニ投宿シタルガ全日ハ大阪高等學校ニ於

ケル講演會ノ外大朝大毎社ノ座談會ニ出席シ翌十三日午後一時

大阪駅發つばめ號ニテ東京ニ向ケ退阪セリ滞阪中ノ動静左記ノ通り

ニシテ相當便宜供與シ置キタリ

右及申(通)報候也

(寫川口天満 阿部野各署長)

記

S 91100-16

51

S 91100-16

50

I-0461

0034

午前七時三十分新大阪ホテルニ投宿全八時五十分着列車ニテ大阪セル大日本少年團理事長ニ荒芳徳伯ト面談、後九時三十分同道ホテル發府市師團ヲ訪問ス

午前十時三十分大阪朝日新聞社ヲ訪問日独少年交誼座談會ニ出席、後朝日新聞社主催ノ朝日ビルアラスカニ於ケル歡迎會ニ出席ス

三午後一時ヨリ大阪府教護聯盟大日本少年團聯盟及當府共同主催ノ朝日會館ニ於ケルヒットラーユーゲント講演會ニ出席石黒社會教育課長司會ノモトニ開會小藏、挨拶ニ次デニ荒伯、挨拶アリワルテルドーナットハ「独逸主義世界觀」ト題シ日本語講演ヲナシ次デシ

ユルツエハ「ヒットラーユーゲントノ教育理想」ト題シ熱弁ヲ振ヒ聴衆一

千八百名極メテ盛會裡ニ午後二時三十分終了ス

四午後二時三十分大阪毎日新聞社ニ於ケル座談會ニ出席午後三時五十分終了歸宿ス

五午後四時ヨリ新大阪ホテルニ於ケル府市主催ノ歡迎晚餐會ニ出席午後五時三十分散會

六午後五時四十分ホテル出發午後六時開會ノ大阪高等學校ニ於ケル講演會ニ出席午後九時終了歸宿ス

七十三日午前九時ホテルニ出テ商店街ニ育橋ヲ見物午後一時大阪駅発上リつばの號ニテ多数見送ヲ受ケ東上セリ



91100-16

53



91100-16

52

I-0461

0035

I-0461

0036

外務省

學生ニ対スルト
正解、待
待
ラ
上
へ
る、
正
改
正
此
段
街
依
頼
申
込
ス



91100-16

58

I-0461

0030

寫送先

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文庫 調查 人典 儀典 文庫 會計 祕書官

大臣 次官

電信課長

分類 16.0.5

外務省

昭和13 二一〇〇七 略 伯林 七月廿一日後發 廿二日前着 情
宇垣外務大臣 東郷大使
第三九〇號（依頼報）
大日本少年團聯盟二荒芳德伯へ宮本ヨリ左ノ通り御傳へ請フ
「ヒットラー、ユーゲンド」ハ近ク閣下ニ有功章贈與ノ爲閣下ノ生
年月日及出生地承知シ度キ由ニ付右御回電請フ（了）



91100-16

62

公 信 案

外務省

親善感情及精神ヲ感得セシムルコトモアリ又独乙ニ
對スル友好的態度ヲ表現トシテ有効適切ト存スルニ次ヲ
ナシ付テハ其ノ實現ヲ御協力相成致ス段御依頼申進ス



91100-16

61

I-0461

00:10

電 報 室 報 知

(分類 2.1.10.2.4)

電 報 料
惟 一 報 料
長 官 官 官 官 官
二 荒 荒 荒 荒 荒
諸 君 諸 君 諸 君 諸 君 諸 君

1695

電 信 案	明治十九年十月二十六日 受 媛 縣 宇和島	宮 本 氏 へ 通 中 傳 へ 諸 君	貴 電 才 三 九 〇 号 三 回	第 二 六 四 號	電 送 第 19457 號		主 管 情 報 部 長
					昭和十三年七月二十三日 午後六時 分發	宛 在 独 東 郷 大 使	
外 務 省				(後 報 電)	名 件 録 記	發 宇 垣 大 臣	主 任 第 一 課 長
							昭和十三年七月二十三日 起草 松

電信課長

發電係

昭和十三年七月二十三日 起草 松

S

91100-16

63

I-0461

0044

電信寫

昭和13 二一〇〇七 略

柏林 七月廿一日後發
本省 廿二日前着

情

宇垣外務大臣

東郷大使

第三九〇號（依頼報）

大日本少年團聯盟ニ荒芳徳伯へ宮本ヨリ左ノ通り御傳へ請フ

「ヒットラー、ユーゲンド」ハ近ク閣下ニ有功章贈與ノ爲閣下ノ生
年月日及出生地承知シ度キ由ニ付右御同電請フ（了）

明治十九 十 二六
愛媛ニ于 和島



91100-16

64

I-0461

00-12

領收證

一金拾二匁五釐五絲也

但此實係實價(七匁)

右領收候也

昭和
昭和拾參年九月拾七日日

外務大臣官房會計課出納



第
號



91100-16

65

I-0461

0043

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.iacar.go.jp/>

歐亞局

運第九四五號

昭和十三年八月二日

鐵道次官 喜安健次郎

外務次官 堀内謙介殿

七月十五日附歐二普通第九四號ヲ以テ御申越ノ訪日獨逸ヒットラ、
ユーゲントニ對スル旅客運賃割引ノ件ハ御申越ノ通特ニ觀光學生團
體トシテ取扱可致ニ付左様御了知相成度

件名

昭和十三年八月二日 接受
鐵道省

S 91100-16

68

記

歐
1385

I-0461

0045

歐亞局

第二課長

名作
昭和十三年八月九日

昭和十三年八月九日



特外歐第一八八號

昭和十三年八月八日

警視總監 安倍源基

(特別高等警察部長)

内務大臣 末次信正殿
外務大臣 宇垣一成殿

各廳府縣長官殿
(管下各警察署長殿)

「ヒットラー・ユーゲント」訪日豫定

並行動日程ニ関スル件

東京市芝區新橋一丁目第一ホテル(止宿予定)

「ヒットラー・ユーゲント」訪日派遣團代表

ロルフ・レデッカー以下三十名

分類 1 10.0.9

右訪日派遣團一行ハ八月十六日横濱入港ノ便船ニテ來邦
即日入京ノ上肩書ホテルニ投宿シ宮本文部省社會教
育官以下ノ斡旋ニテ別記(一)日程表ニ依リ十一月十二日迄
滯邦シ、滯京中ニ於テハ別記(二)日程表ニ依リ行動ヲ爲
ス豫定ニ付引續キ注意中ニ有之

右及申(通)報候也

(管下各警察署長ニ於テハ入京後ハ便宜供與
其他ニ付相當御留意相成度)



91100-16

70



91100-16

69

I-0461

00-16

(別記)

一八月十六日—八月二十七日

東京(二泊)—山中湖(五泊)—輕井澤(五泊)

一八月二十八日—九月十三日

輕井澤—日光(中禪寺湖畔三泊)—若松(一泊)—仙臺

(松島二泊)—六原(一泊)—車中泊 札幌(三泊)—登別(一泊)

青森(汐虫一泊)—十和田湖—湯瀬(一泊)—秋田(二泊)—車中泊 上野

一九月十四日—十月一日

東京(四泊)—船(泊)—大島(一泊)—東京(三泊)—鎌倉(二泊)

熱海(一泊)—箱根(一泊)—東京(六泊)

一十月二日—十月二十日

東京—岐阜(一泊)—名古屋(四泊)—宇治山田(鳥羽二泊)

奈良(四泊)—京都(五泊)—大阪(三泊)

一十月三十一日—十一月十二日

大阪—高松(一泊)—船中(泊)—別府(一泊)—宮崎(三泊)

鹿児島(二泊)—熊本(三泊)—雲仙(二泊)—長崎(一泊)—

福岡(二泊)—下関(一泊)—廣島(三泊)—神戸(三泊)

滞在日数 八十九日
宿泊日数 八十八日



91100-16



91100-16

I-0461

(別記) 二

滞京日程表

月	日	午前	午後	夜
八	一六(火)		東京着 宮城遙拜	晩餐會 (第一ホテル宿泊)
八	一七(水)	神宮神宮、靖國神社、 總理府、逓信省、 外務省、文部省	休養 日獨青少 年團交遊 會招待 (ラフォーテ放送)	團長
九	一三(火)	着京 (午前七、五〇)	休養 在京演日、 ト、會合	(日本青年館宿泊)
九	一四(水)	神宮繪畫館 海軍館	日本永法 國史繪畫館 招待大臣	
九	一五(木)	陸軍病院 遊就館	總理大臣 招待 議會事座 社會事業施設 相模 デパート(三越)	
九	一六(金)	中央卸賣市場 株式取引所	日独文化 協會招待	
九	一七(土)	煙草工場 日立製作所	東京市長 招待會 (茶清公園)	大島へ出帆 (午後一〇、〇〇)
九	一八(日)	大島滞 在	休養	歸京 (午後八、〇〇)
九	一〇(火)	永田町小學校	航空研究所 一、高 招待 大使招待	(第一ホテル宿泊)
九	一一(水)	幼年學校	幼年學校 招待 (市立高師付属學校 圖書館弓道)	歌舞伎 招待
九	一二(木)	横濱	視察	
九	一三(金)	横須賀	視察	
九	一四(土)	鎌倉	見學	
九	一五(日)	箱根 箱根 在	行	
九	一六(月)	箱根 箱根 在		飯京午後六、三〇 (第一ホテル宿泊)



91100-16

74



91100-16

73

I-0461

00:10

(別記) 三

ヒットラー、ユーゲント訪日代表氏名

幹部 (幹部ハ何レモ約三〇〇〇名ヨリナルハ、J、J、ノ團長)

- 一、ロルフ、レデッカー (ブレイメン) 二〇歳
- 二、グンター、ローター (ブラウンシュヴァイク) 二五歳
- 三、ロルフ、ベツガー (イッデルオーバーシュタイン) 二五歳
- 四、ハンス、ヨアヒム、ベーンケ (ハンブルク) 二三歳
- 五、エーリッヒ、ハウト (シュトラールズント) 二四歳
- 六、ハインリッヒ、ユルゲンス (ベルリン) 三三歳
- 七、アルフレット、フォルタースドルフ (ベルリン) 二四歳
- 八、ハンス、デイトリッヒ、デイトマン (ミール) 一八歳
- 九、ヘルマン、フアーレ (ハンブルグ) 一八歳

團員 (何レモ五〇名乃至二〇〇名位ノH、J、ノ團長)

秘書
医師



91100-76

76

九、ニ、七 (火)	帝室博物館 美術学校		獨逸展覽會 音楽学校	
九、ニ、八 (水)	講道館	外務大臣 招待	青年團歡迎 大会 (外苑)	新響演奏會
九、ニ、九 (木)	個人邸宅見學		國際文化振興 會招待 (茶の會 映画)	
九、三、〇 (金)	内原青少年義勇軍訓練所及 水戸視察 (茨城縣)			
一〇、一 (土)	休養	休養	休養	休養



91100-76

75

I-0461

00:19

一、ハンス、ゲオルク、フィッツジャー	(フルダ)	一七
二、クルト、フォルシユ	(アルテンカッセル)	一八
三、ギユンター、フロホフ	(ケーニヒスベルグ)	一九
四、グエルナー、ヘルグイック	(グリーンガングレーフ)	二〇
五、ワイリイ、ホルマー	(ライン河畔ルンデヴィクスハイム)	二一
六、ハンス、ムスフェルト	(オルデンドルフ)	二二
七、ロタール、オルツ	(シュラッテン)	二三
八、ハインツ、リユール	(グエーゼル)	二四
九、ヘルバート、シェツラー	(ベルグドルフ)	二五
一〇、ヘルマン、シュラーイ	(バルリン)	二六
一一、ハンス、クリスチャン、シュレーダー	(イタル、オーバシニタイン)	二七
一二、フリッツ、シュレーター	(シュトルプ)	二八
	(ベルリン)	二九



91100-16

77

一、カール、ハインツ、シュフト	(ヒルデスハイム)	一七
二、ギユンター、シュルツエ	(ザリーツェン)	一八
三、カール、ハインツ、シュルツエ	(ツオイレンローダ)	一九
四、ハインツ、シュポールマン	(シュテッテン)	二〇
五、ベルント、フォン、シュテューグリツ	(ドレスデン)	二一
六、ハインツ、トロヒーマ	(ベルリン)	二二
七、ハインツ、フォルク	(ツェルレ)	二三
八、ハンス、グインター	(ゾントホーフエン)	二四



91100-16

78

I-0461

00:50

小標11.10.0.4

省 部 文

發社一二〇號

昭和十三年八月十六日

文部次官 伊 東 延 吉

外務次官
堀 内 謙 介 殿

日獨青少年團交驛ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ今般獨逸國ヨリヒットラー・ユーゲント派遣團員
三十一名來朝ノ上別紙日程ニ依リ約三ヶ月ニ亘リ國內各地ヲ見學
スルト共ニ我が國青少年團ト交驛致スコトト相成タルニ就テハ八
月十八日午前十一時外務大臣官邸ニ外務大臣ヲ往訪致サセ度ニ付
何分ノ御配意相煩度此段及御依頼候也



91100-16

79

省 部 文

ヒットラー・ユーゲント附添者氏名

引率者 文部省社會教育局青年教育課長

文部省社會教育官

附添者 文 部 屬

文部省屬託

大日本聯合青年團主事

通 譯 外務省屬託

東京文理科大學屬託

日獨文化協會主任

柴 沼 直

松 本 良 彦

岡 村 幸 次 郎

小 澤 滋

鈴 木 健 二 郎

眞 鍋 良 一

橋 岡 英 吉

菱 世 馨

91100-16

80

I-0461

0031

陳

昭和十三年八月拾九日接受

昭和十三年八月十八日

警視總監
安倍源基

內務大臣	外務大臣	文部大臣
末次信正	宇垣一成	荒木真夫
殿	殿	殿

各廳府縣長官

ヒットラー、ユーゲント」訪日派遣代表團一行ノ入京ニ関スル件

東京市芝區新橋一丁目第一ホテル止宿

「ヒットラー、ユーゲント」訪日派遣団代表

團長
副團長

Reinhold
Roth

Shulze (1111)
Gründersch (110)

分類: 1, 10, 0, 4

91100-16



右訪日派遣團代表一行、入京並便宜供與方ニ付テハ
文部(貴)省社會教育局長ヨリ御通報、次第モ有之
注意中、歲八月十七日午後二時十六分東京驛着電車
ニテ横濱ヨリ入京シ、驛構内ニ「オット」独逸大便始メ同
館々員、伊東文部次官、岡田東京府知事、小橋東京
市長、香坂聯合青年團理事長、二荒芳徳伯、鈴木
(陸軍)山下(海軍)各大將及青少年團代表等ノ出
迎ヲ受ケ一同會釋後驛頭廣場ニ於ケル歡迎式ニ臨
ミ、舉式終了後直チニ音樂隊ヲ先頭ニ多数青少
年團員並一般民衆ノ歡迎裡ニ宮城廣場ニ向ケ
行進シ宮城遙拜後、馬場先前門ヨリニ台ノ「バス」

91100-16



82

欠件

1

十

15

47

4.

4

1



アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

ニ分乗、明治神宮、靖國神社参拜及独逸大使館ヲ訪問入京挨拶ヲナシ午後六時三十分無事入京第一日ノ日程ヲ終ヘ肩書ホテルニ投宿セルガ引續キ便宜供與其他ニ就キ留意中ニ有之

尚シユルツエ團長及レデッカー副團長ノ兩名ハ同日午後七時三十分ヨリJ.O.A.K.ヨリ入京挨拶ヲラゲテ放送ヲナシタリ

右及申(通)報候也



91100-16

83

I-0461

0053

在中、北支「ヒットラー」青少年團本邦招待ニ関スル
八月十六日附在京獨逸大使館口上書第一
七五號（假譯）

獨逸大使館ハ在本邦獨逸青少年指導代表
タル管區指導者「ラキンホルド・シユルツェ」氏ヨリ帝國
關係官廳カ獨逸ヨリスル「ヒットラー」青少年團
ノ日本旅行ヲ機トシ在中、北支「ヒットラー」青少年
團ヲモ日本ニ招待セラル、旨承知セリ。

外務省



91100-16

84

本大使館ハ右招待ハ全極東在留獨逸人ノ対
日親善關係ヲ増進スル上ニ於テ極メテ適当
ナルニ付衷心ヨリ之ヲ歡迎スルモノニシテ、在中、北支
「ヒットラー」青少年團ハ右招待ヲ感謝ヲ以テ
受諾スル旨管區指導者「シユルツェ」ノ希望ニ
基キ通報スルノ光榮ヲ有ス。

外務省



91100-16

85

I-0461

0034

Deutsche Botschaft.

Nr. 175.

Verbalnote.

Die Deutsche Botschaft hat von Herrn Gebietsführer Reinhold Schulze, dem Delegierten der Reichsjugendführung in Japan, erfahren, daß die zuständigen Kaiserlichen Behörden anlässlich der Japanfahrt der aus Deutschland kommenden Hitler-Jugend-Gruppe auch eine Gruppe der Hitlerjugend von Mittel- und Nordchina nach Japan eingeladen haben.

Die Deutsche Botschaft begrüßt diese Einladung aufs lebhafteste, da sie in besonderem Maße geeignet ist, die freundschaftlichen Beziehungen des gesamten Ostasiendeutschums zu Japan zu fördern, und gestattet sich, auf Wunsch des Gebietsführers Schulze mitzuteilen, daß die Hitler-Jugend-Gruppen in Mittel- und Nordchina die Einladung mit dem aufrichtigsten Danke annehmen.

Tokyo, den 16. August 1938.

An

das Kaiserlich Japanische Ministerium der
Auswärtigen Angelegenheiten

T o k y o



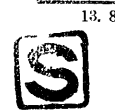
91100-16

86

I-0461

在中、北支「ヒットラー」青少年團本邦招待ニ關スル
八月十六日附在京獨逸大使館口上書第一七五號(假譯)
獨逸大使館ハ在本邦獨逸青少年指導代表タル管區指導者「ラキン
ルド、シュルツェ」氏ヨリ帝國關係官廳カ獨逸ヨリスル「ヒット
ラー」青少年團ノ日本旅行ヲ機トシ在中、北支「ヒットラー」青少年
團ヲモ日本ニ招待セラル旨承知セリ
本大使館ハ右招待ハ全極東在留獨逸人ノ對日親善關係ヲ増進スル上
ニ於テ極メテ適當ナルニ付衷心ヨリ之ヲ歡迎スルモノニシテ、在中、
北支「ヒットラー」青少年團ハ右招待ヲ感謝ヲ以テ受諾スル旨管區
指導者「シュルツェ」ノ希望ニ基キ通報スルノ光榮ヲ有ス。

外務省



91100-16

87

I-0461

0056

Deutsche Botschaft.

Nr. 175.

Verbalnote.

Die Deutsche Botschaft hat von Herrn Gebietsführer Reinhold Schulze, dem Delegierten der Reichsjugendführung in Japan, erfahren, dass die zuständigen Kaiserlichen Behörden enlässlich der Japanfahrt der aus Deutschland kommenden Hitler-Jugend-Gruppe auch eine Gruppe der Hitlerjugend von Mittel- und Nordchina nach Japan eingeladen haben.

Die Deutsche Botschaft begrüsst diese Einladung aufs lebhafteste, da sie in besonderem Masse geeignet ist, die freundschaftlichen Beziehungen des gesamten Ostasien-Deutschtums zu Japan zu fördern, und gestattet sich, auf Wunsch des Gebietsführers Schulze mitzuteilen, dass die Hitler-Jugend-Gruppen in Mittel- und Nordchina die Einladung mit dem aufrichtigsten Danke annehmen.

Tokyo, den 16. August 1938.

An

das Kaiserlich Japanische Ministerium der
Auswärtigen Angelegenheiten

T o k y o .



91100-16

88

I-0461

0057

歐亞局

特外歐第一九〇八號

昭和十三年八月二十日

昭和十三年八月廿二日接受

警視總監 安倍源基

内務大臣 末次信正 殿
外務大臣 宇垣一成 殿
文部大臣 荒木貞夫 殿
各廳府縣長官 殿

分類 I 1. 10. 0. 4

「ヒットラー、ユーゲント」訪日派遣代表團一行一時退京ニ関スル件
東京市芝區新橋二丁目第一ホテル止宿
ヒットラー、ユーゲント「訪日派遣代表團」代表
團長 Reinhold Schulze (三三)
副團長 Rolf Reiter (二〇)

右一行、入京並動靜ニ付テハ對號既報ノ處ナルガ其ノ後
八月十八日午前九時十五分肩書ホテルヲ出發シ首相、外、文
(貴官)、陸、海軍各相ヲ訪問後赤坂區葵町満鐵
ビル内「アジア」ニ於テ開催セラレタル日独青少年交驛
午餐會ニ出席翌十九日午前八時三十一分新宿驛發列車
ニテ六月驛ニ向ケ出發(山梨(貴)縣ハ電話既報済)シ
一時退京ノ上豫定日程表ニヨル旅行ノ途ニ就キタリ
右及申(通)報候

名件
ヒットラー、ユーゲント「訪日派遣代表團」代表

S 91100-16

90

S 91100-16

89

I-0461

0058

第三編

第三編

昭和十三年八月二十五日

昭和十三年八月二十五日

13.8.30

特高秘第 九三七 號

昭和十三年八月二十五日

山梨縣知事 土居 章 平

内務大臣 末次信正 殿
外務大臣 宇垣一成 殿
文部大臣 荒木貞夫 殿
各廳府縣長官 殿

「ビクトリー・エージェント」訪日派遣團一行ノ来往ニ関スル件

「ビクトリー・エージェント」訪日派遣團代表

團長 ラインホルト、シュルツェ

副團長 ロルフ・レデッカー

(29) (33)

(分 第 I / 10, 5, 1 /)

右一行三名ハ本月十九日午前八時三十分新宿駅発列車ニテ入都、菅
下南都留郡中野村山中湖畔ニ宿營中、処同月二十三日午前七時十
分富士吉田駅發電車ニテ大月、甲府駅經由輕井澤ニ向ケ旅行ノ途ニ就
タルガ其間ノ動靜左記ノ通りニ有之 尚一行ニ對シテハ相當便宜供與シ
置キタリ

右及申(通)報候也

記

一八月十九日

午前十一時三十分富士吉田駅着福地瑞穂西村男青年団及山年団其
ノ歡迎ヲ受ケ金鳥居前ニテ專用バスニ台ニ分乗シ一路中野村山中湖畔所在富
士ニエーランドホテルニ午後零時十五分着午後零時三十分知事歡迎晝餐
會ニ列ス 午後二時ヨリ旭ヶ丘所在日本青年館分館清溪寮内日本代表
青少年団キャンプ場ニ至リ歡迎式ニ臨ミ 午後四時三十分ヨリ林間廣場ニ
於テ日獨青少年同合同、劇ヲ開催シ午後五時四十分閉會ニ一行ハキャンプ場ニ
歸リ夕食ヲ採リ午後七時ヨリキャンプ場広場ニ於テ營火ヲ燈シ野營シ其ノ間荒
水文部大臣(貴官)ノ訓授ヲ受ケタリ 午後九時營火熄了一行就寢ス

S

91100-16

92

S

91100-16

91

I-0461

0039

二八月二十日

一行午前五時起床 朝禮、朝食ス、其間 荒木文部大臣(貴官)ノ訓授ヲ受ケ
一行ハニ班ニ分レ一班ハ午前七時三十分、一班ハ正午 各々バスニ乗り富士淺間神
社前ニテ下車 富士登山ヲナス、午後六時三十分頃一行ハ富士山ハ合目山舎ニ着シ
投宿ス

三八月二十一日

午前四時八合目山舎ヲ出発 頂ニ向ス 午後三時三十分 御殿場口ニ下山シニエー
グランドロッヂニ投宿ス、

四八月二十二日

午前十時キヤンプ場開場式ニ臨ミ 午前十一時三十分ヨリバスニ分乗河口湖畔ニ到着
渡船ニテ富士ビユーホテルニ至リ 晝食、ソレヨリ紅葉台、富岳風穴ヲ見物
ノ後 午後四時五十分 宿舎 富士ニエーグランドロッヂニ帰宿ス

五八月二十三日

午前六時半 ロッヂニ出発 同七時十分 富士吉田駅発電車ニ大月駅経由中央線ニテ

輕井澤ニ向ケ出発セルガ途甲 甲府駅ニ於テハ 甲府市青少年団員其他各
種団体代表者等約八百名 ホールニ整列、本職及甲府市長ヨリ歓迎ノ挨拶ヲ爲シタル処
ニシテ 田長ヨリ答辞アリ 頗ル盛大ナル交歓ヲナシ 午前九時
五十分全駅発 全十一時三十分小淵沢駅ヨリ 山海線ニ乗替一路輕井澤ニ向ヒ
タリ



91100-16

94



91100-16

93

I-0461

00:00

歐亞局

特高外牧参八二二第

昭和十三年九月二日

栃木縣知事 呈上

收

内務大臣 末次信正殿
外務大臣 宇垣一成殿
文部大臣 荒木貞夫殿
食糧府縣長 官殿

「ヒップラーユーゲント」訪日派遣團一行ノ
末住ニ関スル件

州リ訪日派遣團

團長

ライオン ホルト シェルツエ

外ニ本九夜



91100-16

95

右一行ハ小山都道者以道取乗セル官民青年團並小學生等
数ノ歡迎程ハ八月十八日午後三時於本省旅日支那青年團並小學生等
駅構内廣場ニ出迎セル所役場吏員青年團外學生等ノ機務員等
動車ニ分乗東進宮ニ荒山神社ヲ参拝後中宮祠ヘ向テ出立セル
サイドホテル 宿泊翌二十日午前十一時ニ本團皆 慈恵院ニ戦場
代表シテノ挨拶ヲ行ヒ午後三時ニ於リ一時同宿舎附近ニ龍元
和樂踊及奉納燈籠ヲ觀覽等日ハ休養日トシテ自由行動ヲ採リ
二十日中宮祠ニ参拜後團内遊覽ニ自動車ヲ自走檢査木ヲ見物シテ
都宮市ニ至リ本九廣場ニテ宇都宮市及近隣ノ青少年團中學學
校生徒ニテ六百名ト交際ヲ遂ケ武徳殿ニ於テ中等學校選手ノ柔
剣演習ヲ觀覽午前十一時半八分中宮駅乗車列車ニテ市民ノ歡
送ヲ受ケテ歸ル(貴縣ニ向テハ本九夜)



91100-16

96

I-0461

0061

追跡其間相害便宜供共シ置キタリ。

右及申一通報候也

記

私等とフトリエーダント指導者等ハ只今閣下ノ御言葉ニ衷心より
感謝ノ意ヲ表シマス、一行ハ日本ニ来テカクモ日ニ云ナリヤセシガ
ル所デ總テノ体験ヲ得マレタリ其ノ中最大ノ事柄ハ日本ノ此等様
リ至ル所デ熱誠ヲ歓迎ヲ受ケタリ喜ビデアリマス 我々ハ昨日日
ニ来テ莊嚴ナル社寺ヲ拜觀致シテ日本ハ殊ニ自然美ノ偉大ナル感
シマシタ 日本國民ノ魂ハ此ノ自然美ノ中ニ故國ニ於テ戦々ノ國
我々ハ後又見タ湖水又見タ此ノ自然美ノ中ニ故國ニ於テ戦々ノ國
ガ建國ヲ語リ合フタフトリ思ハ出サレタリ 一度其ノ意味ヲ察ス其
ニ極ハタリ 總テ其ノ精神ヲ充分ニ解ルコトガ出来ル此等様ニ言フ僅カ

ナリアルガ此等様ノ前ニ居ルヒフトラーエーダントハ殊逸ヲ代表スル
ノデアル 此等様自來國旗ヲ掲ゲラレタハ戦々ノ勢ガ國ヲ能バレタ
ス 銀座其ノ他ノ盛リ場ヲ見ルタニ来テデハナリ 日本國民ノ魂ヲ
見ル所 来テ此等様ニ共產主義運動ガ世界ニ足ヲ延バスト又兩國
ノ強固ナ精神ノ前ニハバズ屈服スルコトヲ確信シテ居ルフトデアリス
今兩國國民ハ此等様ノ結ビ東亞ノ大使命ヲ向テ第一歩ヲ踏ミ出シ
マレタ 我々ヒフトラーエーダントハ父等ニ依リテ能バレタ此ノ使命達
成ヲ来テ来ルナリ 交々ヲ候ケタリト思ヒマス
此ノ意味ヲ察ス其ノ精神ヲ充分ニ解ルコトガ出来ル此等様ニ言フ僅カ

S

91100-16

98

S

91100-16

97

I-0461

0062

歐亞局

特許外紋第八五四部

昭和十三年九月二日

栃木縣知事 呈上

收

内務大臣 米次信正殿
外務大臣 中垣一成殿
文部大臣 荒木貞夫殿
各府県知事 長官殿

日丁 訪日派遣團 奉答書 呈上

日丁 訪日派遣團

ライオンホルト、シエルトエ
外ニナル名

一行八月八日午後一時四十分京都駅乗車
是中宮内省長官等一行は、滞在在在所、観光並に各府県を
ト交歓する途、八月三十一日午前十一時四十分京都駅乗車

福島(貴縣)ニ向テ出發シタルハ既報ノ通りナルガ八月三十一日午後五時
ヲ通ジ左記物品ヲ中宮省長官等一行に遺贈スルニ付、府内各所トテ
贈呈ス

記

梨

二籠

羊羹

五十本

五華棒

五袋

府内各所(通)報修心



91100-16

100



91100-16

99



名件

昭和十三年九月七日 接受

歐亞局

第二課長

特別秘收第一一五七六號

昭和十三年九月五日

長野縣知事 大村 清一

昭和十三年九月拾參日



内務大臣米次信正殿
外務大臣宇垣一成殿
各廳府縣長官殿
(字輕井澤署長)

ヒットラー、ユーゲンツ訪日派遣代表團一行、
來往狀況ニ關スル件

分類 I 1. 10. 0. 4

ヒットラー、ユーゲンツ訪日派遣代表

團長 ラインホルト シムルツス

Reinhold Schultze

副團長 ロルフ レビツカー

Rolf Lebkamer

右第一行三十一名ハ八月二十三日午後三時三十分輕井澤
驛着ハリ列車ニテ小海線經由山梨縣ヨリ入縣九記、如ク
日独青少年團ノ交雜會其他各招待會等ニ出席日独親
善、美果々收メテ八月八日午前八時三十分輕井澤發ハリ列車ニ
テ栃木縣ニ向テ返縣シタリ
右申(通)報候也

記

八月二十三日

午後三時三十分縣下各青少年代表其他一千名ノ歡



91100-16

102



91100-16

101

I-0461

0034

迎裡ニ輕井澤取着取前廣場ニ於テ本職代理池田
社會教育課長ノ歡迎ノ辭ニ對シニスルツニ團長ヨリ之
カ答辭アリ万歳云唱、後旅館万平ホタルニ入り休養
セリ同日文學博士佐々木信綱 松高教授ツアヒ
ハトノ訪問アリシリ

八月二十四日

自由行動ニシテ休養散步等ヲ為ス

午後七時三十分ヨリ全十時迄輕井澤會館ニ於テ日
本文化中央聯盟、日独文化協會、輕井澤青少年
團主催映画會ニ出席ス 尚午後ニ將頃着速家林
房雄ハ團長副團長ヲ訪問シテ最近ノ自著牧場物
語壯年太陽ト薔薇、三冊ヲ贈呈シ又代議士小山
邦太郎ハ小諸國防青年團ヲ代表シテ訪問セリ

八月二十五日

午前七時ヨリ八時迄早大グラントニ於テ運動(フットボール
手榴彈投)ヲ為シ同九時小諸町國防青年團ノ歡迎ニ
對シ約四名ノ代表者答禮ニ向フ

午前十時ヨリ輕井澤集會場ニ於テ駐日独逸教師聯
盟ノ日本ニ関スルセミナーニ出席午後七時三十分ヨリ全
十時三十分頃迄ホタルニ於テ十千人社會教育部主催
ノ團休歡迎晚餐會ニ出席ス

八月二十六日

前日全樣輕井澤集會堂ニ於テ講演會ニ出席スル外
自由行動ヲ採リ午後六時ヨリスミナカグラントニ於テ佐堂
卓雄ノ招待會ニ出席ス

尚團員外ノ出席者ハ芳澤謙吉 後藤文雄 嶋山



91100-16

104



91100-16

103

I-0461

0035

一郎内田信也 二六兵治 林博太郎 川村町治 関屋
貞三郎 砂田重政 友枝高彦 オット独大使等ナリ

八月二十七日

午前中八前日会様集會堂ニ於テ独逸大使等ノ講演
ヲ聞キ午後一時ヨリ輕井澤會館ニ於テ本縣長ニ聯合
青少年團輕井澤町等共同主催ノ交響會ニ出席シ
午後四時ヨリ前田利為侯別荘ニ於テ近衛首相ノ招
待會ニ臨ミ午後六時三十分ヨリ輕井澤會館ニ於テ
歡迎會ニ出席ス

八月二十八日

午前八時三十分輕井澤駅發リリ列車ニテ日光ニ向還縣
ス

以
上



91100-16

105

I-0461

0055

歐亞局

特外發第二二九二號

昭和十三年九月八日

山形縣知事 武井祥嗣

昭和十三年九月八日



内務大臣 末次信正 殿
外務大臣 宇垣一成 殿
文部大臣 荒木貞夫 殿
各廳府縣長官 殿
(寫鴈岡警察署署長 殿)

「ヒットラー・ユーゲント」訪日派遣團一行
來在ニ関スル件

「ヒットラー・ユーゲント」訪日派遣團代表

團長 ラインホルト・シュルツェ (23)
副團長 ロル・レデッカー (20)

右一行二十九名ハ本月三日午後六時十分鴈岡駅着列車ニテ

新潟(貴)縣ヨリ來縣管下西田川郡加茂町湯之浜温泉
温泉旅館ニ投宿翌四日午前八時二分鴈岡駅發下り列車
ニテ秋田市ニ向ケ出發シタルガ其ノ間ノ動靜左記ニ通り有之
尚一行ニ對シテハ相當便宜供與シ置キタリ
右及申(通)報候也

記

一九九三日

午後六時十分鴈岡駅着、駅ホームニ於テ小官代理福永学
務部長及本廳小金井特高課長並ニ熊田鴈岡市長
其他鴈岡市會議員、青少年團代表中等學校生
徒代表、小學校児童代表等、出迎テ受ケ、駅前廣場
ニ集合セル鴈岡市役所吏員、在郷軍人分會、青年團
愛婦、國婦人會中等學校生徒、小學校児童其、他
數十人、歡迎ヲ受ケ、左所ニ新設セラレタル高見台ニ同
整列歡迎式ニ臨ム

歡迎式ノ狀況



91100-16

107



91100-16

106

I-0461

0037

(一) 鶴岡市學務課長、開會、辞
 (二) 熊田鶴岡市長、祝辞
 (三) 鶴岡市聯合少年團代表林茂入、歓迎、辞
 (四) シニルシエ團長、答辞
 (五) ヒットラーユーゲント、歌合唱
 (六) シニルツエ團長、發聲ニヨリ大日本帝國萬歳三唱
 (七) 熊田鶴岡市長、發聲ニヨリ狹逸國萬歳三唱
 (八) 鶴岡市學務課長、閉會、辞
 歡迎式終了後臨時電車ニテ湯之浜温泉ニ至リ湯之浜駅ヨリ
 宿舎龜屋旅館ニ至ル沿道ニ於テ小学校児童其ノ他各種團體
 員、日獨西國旗ヲ持テ塔列セル歡迎ヲ受ケ龜屋旅館ニ入ル
 二、旅館内ニ於ケル行動
 夕食後、自由行動ニテ旅館内外ノ散歩ヲ爲スモ、マリタルガ同日
 午後十時ヨリ鶴岡市内各新聞通信者七名ノ訪問ヲ受ケ、レデッ
 カ、副團長ハ別記ノ如キ會談ヲナシ、全十時四十分終了ス
 三、九月四日

午前六時起床、全六時四十分朝食、七時十五分宿舎出發沿道並ニ湯
 之浜駅前ニ於ケル各種團體ノ歡迎ヲ受ケ同七時三十分湯之浜駅
 發臨時電車ニテ鶴岡駅ニ至リ前日ト全旅ノ歡迎ヲ受ケ全ハ
 時三分鶴岡駅發下リ列車ニテ秋田市ニ向ケ出發シタルガ各駅
 ニ於テ小学校児童、中等學校生徒其ノ他官民多数ノ歡迎ヲ
 受ケ非常ナル満足裡ニ退縣セリ
 四、湯之浜温泉滞在ニ於ケル特異ナル事項
 九月三日夜ハ一行宿泊ニ付各種事故ノ未然防止ノ爲メ所轄警察署
 員、外全部落消防組員、出動警戒中ナリシガ
 本籍 鶴岡市銀治町二一八
 住所 全上 戸主 清芳、弟
 西田川郡加茂小学校訓導 小野清三郎(三八)
 ナル者連日、如ク飲酒スルノ癖ヲ有シ、今夜モ飲酒シ上略所
 シ居リ且ツ少々狹逸語ヲ會話シ得ルトコロヨリ四日午前
 零時頃散歩中ナリシ「シニルシエ」團長外一名ヲ歡誘、全温泉
 内飲食店「ホテイヤ」コト奥山金矢エオニ於テ飲食セシメタルガ

I-0461

店主奥山金兵衛、歡迎スル意志、下ニ代金ヲ請求セテ馳走
スルモノナリト申述、ハタルニ右ニ名ノ「ユウゲ」團員ハ「ソレハ御氣
ノ毒ナリ」トテ日本酒、銚子三本、小豆一皿宛（五十錢）ヲ飲食シ
タリ、ミテ全店ヲ立去リ、歸宿セルガ飲食代金ハ小野訓導が
支拂フ模様ナルモ、全人ノ行動ハ教育者トシテ不謹、慎ナルモ
認メラレタルヲ以テ、加茂小學校長ヲ通シ注意セシメ置キタリ

ユ
ノ
3



91100-16

110

I-0461

0039

別記

一、デッカー副團長ト新聞通信記者トノ會談内容(問ハ新聞通信記者答ハレデッカー副團長)

一問 富士山麓山中湖畔ノ日本少年團トノ野營生活ニ於テ日本少年團ニ如何ナル長所、短所ヲ見受テミレタカ

答 山中湖畔 野營生活ニ於テハ日本青少年團其ノ他各種団体ト実ニ反情的ニ感ミレ心カラ愉快ニ樂シク暮ル

當時ニ於ケル青少年團員ハ炊事マ天幕張等各々仕事ヲ自分ノテマツテ居ル人等ハ長所ト見ミレ大ニ感心シタ

短所等ハ日独ノ國情カ互ニ相違スルニ我々ノ野營生活ヲ見ラレタカハ良クオ判リノコトデセウ

一問 所共協定ヲ締結シ居ル日本ヲ如何ニ感ミシレタカ

答 日本國民ハ天皇陛下ニ對スル敬身ノ努力ハ如何ナルモノニ遭遇シテモ必ズ打テ克シト云フ信念ガアリ現在支那ニ於テ所共ノ聖戰ニ努力サレテ居ルコトハ「ヒットラー」モ感激サレテ居ルコトデマリ又我々「ヒットラー」ニ「セント」トシラモ歸國後ハ詳細コノコトヲ報

告スル考ヘテアル

三問 日本精神ナルモノヲ幾何ナルト見テ「ヒットラー」得ラレタカ

答 日本精神ノ發露ハ所有トコロニ見ルコトガ出來ルカ先ツ東京ニ到着早々宮城遙拜 明治神社 靖國神社ヲ參拜

シタコトヲ特ニ宮城遙拜ニ際シテハ崇敬ノ念ヲ抱キ明治神社 靖國神社ヲ參拜シテ日本精神ハ感ミラレ又農民ガ年老イテ腰ガ曲ツテカラマデモ一生懸命ニ働イテ居ルト云フコトモ日本精神ノ現ハレテセウ

富士山ニ登山シタガマノ莊嚴サナト何レモ日本精神ノ現レト見ルコトガ出來ル

四問 日本刀ニ對シテ幾何ナル感想ヲ持タルカ

答 刀ニ對スル觀念ハ日本モ他國モ全クコトデ刀ハ邪ヲ正スモノトテ他國ニハ皇帝ガ刀ヲ持ツ場合ハ正義ノタメデアリ日本刀ノ如何ナルモノカラ良ク判ツテ居ル日本デハ刀ヲ跨クコトヲ許サレヌト云フ莊嚴取扱ヒカ丁重デアルト聞イテ居ルガ私モ日本ニ對シテハ崇高ノ念ヲ抱イテ居ル



91100-16

112



91100-16

111

I-0461

歐亞屬

外務部第六六一〇號

昭和十三年九月十二日

昭和十三年九月十五日接



北海道廳長官 石 黒 英 彦

内務大臣末次信正殿
外務大臣宇垣一成殿
文部大臣荒木貞夫殿
各廳府縣長官殿

ヒットラー・ユーゲント 訪日
派遣團一行ノ來道ニ関スル件

ヒットラー・ユーゲント 訪日派遣團

團長

Reinhold

シュルツェ
Schulze (三三)

以下三十一名

右一行ハ本月四日午後十時三十分函館入港青函連絡船ニテ文部省社会教育官松本良彦外関係官公団体員七名ニ附添ハレテ來道シ(内二名ハ一行ヨリ遅レテ九月七日午後零時五十分函館入港青函連絡船ニテ來道)左記ノ通道内各地ヲ訪問、本道青年団代表ト交驩ノ上本月九日午後五時函館發青函連絡船ニテ青森(貴)縣下茂虫温泉ニ向ケ退道セル(内一名ハ病氣ノ爲登別温泉ニ残り本月十一日午後五時函館發青函連絡船ニテ退道一行ノ後ヲ追ヘリ)



91100-76

114



91100-76

113

I-0461

0071

ガ其ノ間何等ノ事故ナク相雷便宜ヲ供與シ置キタ
リ（青支（貴）縣ハ電話連絡済）
右及申（通）報候也

記

九月四日

午後十時三十分函館入港青函連絡船ニテ一行團長以下二十九名求道シ、函
館市内青少年団、中等学校生徒等十名ノ出迎シ受ケテ振橋駅ニテ休憩午後
十一時四十分函館發列車ニテ札幌ニ向ヒタリ

九月五日

午前十時三十分札幌到着、取掛内ニハ三沢札幌市長外官公行首賜者、左留
留連ノ約ニ十名札幌及石狩聯合青年團代表五十名ノ歡迎禮ニ下車交迎ノ後
沿道ニ端列スル青年團、学校生徒一城市民數万ノ歡迎禮ニ行進、宿舎タル
札幌市北一条西四丁目札幌グランドホテルニ到着、宿舎前ニ於テ白旗掲
車団代表交禮挨拶ノ後宿舎ニ入り休養ス、

九月六日

午前九時三十分一行ハ札幌ノ中ノ三台ノバスニ分乗シテ宿舎出發、札幌神
社ニ参拝シ引籠リ當行^{（扶養連）}大ニテ訪問大日本麥酒会社札幌支店ヲ視察、
午後二時当行林業試験場ニ到リ昼食ノ後全試験場及野幌原也林ヲ視察シテ
午後二時十五分帰順

九月七日

午前中休養

午後一時歸順、ハイムリント、エルケンス以下二十四名ハバス三台ニ分
乗シテ宿舎出發並南街道ヲ取廻シ途中十歳轉仕場視察、午後四時支那湖畔
着、以應ノ後午後四時三十分日飯青年交禮野幌場ニ到リ、



91100-76

116



91100-16

115

I-0461

00:12

九月八日

團長「ニエールンエ、以下五名ハ疲勞休養及事務整理ノ爲札幌グランドホテルニ滞留、翌日「ニエールンエ」ニ於テ凡部ニ置リ休養セリ、
一九一〇ヘルバート、ニエールンエ、（一八）ノ西名ハ一行ノ後ヲ追ヒ本日午後零時五十分函館ハ港青函連絡船ニテ来道、午後七時四十分札幌着、札幌グランドホテル宿泊中ノ團長以下五名ト合流セリ、
一方支那湖畔交遊野営場着、一行ハ札幌地方海軍人事部長福田大佐ノ指導ニテ本道青年代表四十名ト、テント小屋ニ散宿交遊ノ後午後八時野営場ヲ引揚グ支那湖畔、王子製紙株式會社俱樂部及翠園ニ投宿セリ、
午前十時五十八分支那湖畔王子製紙株式會社專用軌道ニテ芒小牧着、札幌グランドホテル滞在ノ中ノ團長以下五名ハ午前九時七分苗穂發北海道鉄道ニテ全十時四十二分芒小牧着、一行ヲ待テ受ケテ芒小牧、王子製紙株式會社小牧工場ニテ昼食、同工場視察ノ後午後三時十分發列車ニテ午後四時三十分登別温泉着、今池青年團ノ歡迎裡ニ登別温泉グランドホテルニ投宿セリ、

九月九日

午前八時四十分登別温泉着、午後三時五十分函館着、午後五時正館出發、青函連絡船ニテ青森（貴）縣下田温泉ニ向ケ退道、
但シ一行中幹部「グンター・ローター」氏（ニ五）ハ會津若松ニ於テ旅行中鞍倒兩足第三関節附近ニ擦過傷ヲ負ヒ左足ハ全治ヒルモ右足ノ傷化膿シタル為登別温泉グランドホテルニ滞在シ北大附屬病院登別温泉分院ノ治療ヲ受ケタルガ至退良好ノ爲不用十一日午前八時四十分登別温泉出發、午後五時正館出發青函連絡船ニテ東京ニ向ケ一行ノ後ヲ追ヒ一路退道セリ、



91100-16

118



91100-16

117

I-0461

0073

歐亞局

第二課長

特外政第ニ〇九〇號

昭和十三年九月十三日

昭和十三年九月十四日接取



電

警視總監 安居 源 基

内務大臣 永 次 信 成 殿
外務大臣 宇 垣 一 成 殿
文部大臣 荒 瀬 貞 夫 殿
各 府 縣 官 殿

「ヒットラー・ユーゲント」訪日派遣
代表團一行ノ再入京ニ関スル件

附送

昭和十三年八月八日付 特外政第一八八号
「一三、八二〇日付」
「一八、九四号」 當庁
「一九、〇八号」



91100-16

119

東京市四谷區霞ヶ丘日が青年館止宿

「ヒットラー・ユーゲント」訪日派遣代表

團長 Reinhold Schulze (三三)
副團長 R. J. J. (二〇)

以下三十一名一行

右一行ノ動靜並一時退京等ニ関シハ對蹠既報ノ趣一行ハ東京北地
方旅行ノ途上都合ニ依リニ班ニ分レ「シュルツェ」團長以下十七名ハ
九月十二日午後七時五分「レグンカー」副團長以下十四名ハ翌十三日午
前八時五分何レモ上野驛着列車ニテ秋田(貴)縣ヨリ無事再入京シ
肩書青年會館ニ止宿滞在シ予定日程ニヨリ行動中ニ有之
尚一行ハ九月十七日管下八島ニ旅行翌十九日退京后ハ芝區新橋(丁目
第一ホテルニ連宿十月二日退京時マテ止宿ノ予定ニ付為念
右及申(通)報候



91100-16

120

I-0461

0074

歐亞局

特高班第一九六六号

昭和十三年九月十五日

秋田縣知事 佐々木芳雄

内務大臣 末次信正殿
外務大臣 宇垣一成殿
各府県知事 長官殿

ヒントラーユーゲント」 初日派遣
代表ノ來往状況ニ関スル件ト

ヒントラーユーゲント」 初日派遣代表

田長

ラインホルド シュルツェ

副田長

Runkel Schulze

ロルフ、レニツカー

Karl Recker

(1)

右一行三名ハ九月四日午前十時十八分秋田驛前
ニ於テ日独青年団ノ交歓ヲ爲シ同日午前工時五十
五分下発列車ニテ一先ノ青森(實線)ニ向テ退線スル
十日午後四時頃青森驛ニ和田ヲ觀老自自動車ニシ

副田長 ロルフ レニツカー

ノ引率ノ下ニ田員三名ハ西ヒ來驛各地ノ觀望會ニ
出席スル等日独親善ノ成果ヲ收メ十二日午後五時二十
分秋田発上リ列車ニテ山形驛ニ向テ退線スル其ノ
状況左記ニ通ニ有之
右及申(通)報候也

一九四四年

件名 秋田縣知事 佐々木芳雄
昭和十三年九月十五日

歐
13.9.26
三

認

S

91100-16

122

S

91100-16

121

I-0461

0075

午前十一時十八分縣下青森青年団代表市内男女中等
學生其他二千余名、歡迎裡ニ秋田驛ニ下車取前
広場ニ於テ本職ノ歡迎ノ時ニ對シ「シルン」同長ヨリ
之カ答辭アリ同帝國萬歳三喝シ交歡ヲ終ヘ午
前十一時五十五分青森北海道ヲ訪問ノ爲ニ先ノ返驛
セリ

二、九月十日

訪日派遣団ハニ隊ニ別レ「レナカ」副団長ノ引率ニ
ル一行十一名ハ午四時頃自乗車ニテ青年団員其
ノ他各団体代表者等ノ歡迎程ニ降下モ馬内野
ニ入り鹿角郡聯合青年団ノ觀迎茶話會ニ安
席、日獨兩代表ノ交歡後一行ハ湯瀬木テルニ投
宿午後八時ヨリ金木テル大廣間ニ於テ鹿角青年団

主催ノ晚餐會ニ安席在留ドイツ人カトリック牧師
牧師「ウィルヘルムプー」ヨリ別添「フ」ノ觀迎ノ辭アリ
花輪歸其ノ他ノ御土藝術ヲ觀覽晝食裡ニ午後
十時終了散會セリ

三、九月十一日

午前九時四十分湯瀬木列車ニテ同地ヲ之チ途中
大館駅前ノ忠大ハチ会ノ銅像ヲ觀午後一時五
三分青年団員等多數ノ歡迎ヲ受ケ直チニ秋田市
土手長町小林旅館ニ投宿在留ドイツ人カト
リック牧師「カールオルトン」モスト等ノ訪
問ヲ受ケタル後此ニ生青年団ト市內ノ散策
ニ付午後六時ヨリ秋田市秋田俱樂部食堂ニ於
テル歡迎晚餐會ニ安席シ同國々歌育唱秋田



91100-16

124



91100-16

123

I-0461

0076

露邦の青年団代表打川孝道、別添(三)観望
ノ授授在留ドイツ人代表「オルトン」別添(三)観望
ノ降アリと云ふヘ聯合青年団代表「アドルフ・ヒン
トラー」密正馬才飛達団代表、天皇陛下前オラ
奉賜ニ御土藝藝術ヲ觀望、午後八時終了後
了後自由行動ヲ擇リ引客者ノ指導下ニ
市内ニ散策スル十時、飯止山花アリ

四 九月十二日

午前九時三十分陸軍病院ニ傷病兵ヲ慰問シ傷病
兵一同「コハット」百個ヲ分與シ「勇敢ナル日本軍人ハ
デモ最モ勇ヲ取ナル」若林ノ致傷ヲ心カラ御見舞
ヲ申シ「ニゲル早ク全快シ両ヒ戰線ニ出ラル」コトヲ
祈ヒト慰問ノ降ヲ述ベ、全所ヲ退去、午前十一時

(3)

九分西目駅着列車ニテ西目村西目村ニ至リ、駅頭
西目村青年団員ノ歡迎ヲ受ケ、隊伍ノ終同村小此
校ニ入り、歡迎ヲ受ケ、隊伍ノ終同村小此校ニ入り、觀
迎會場ニ臨ミ、両國ノ歌ヲ唱、兩代表ノ交歓、兩國
ノ萬歳ヲ三唱、農業教育ノ実習ヲ參觀、果樹園
等ヲ視察シ、午後二時三十分駅頭ニ由リ聯合青
年団婦人団体員等ノ歡迎裡ニ午後三時五十分
秋田市ニ到着、駅頭木内食堂ニ休息中、新聞記
者等ト農村教育ニ對シ一問一答ヲ爲シ
小使ニハモーターヲ添刺タル車ヲ以テ、後廢スル
機教育ニテハ如何ト思ハレルト稱シ、午後五時三
十分上り急行列車ニテ男女青年團員多數ノ觀送
ヲ受ケ、山々ニ下リ



91100-76

126



91100-76

125

I-0461

別添(一)

歡迎の辞

在米ドイツ人 オルトレ

こゝ秋田に在住するドイツ人名を以てヒントラーエトゲ
ントと真心より歡迎いたします

吾々の中にはすでに三十年三十年を親切に日本に留ま
つてゐるものがあります。とりわけその時から吾々がドイツ国
と見たことがないのであります。この頃ドイツ国に於ては
大なる文化があらまゝに吾等がドイツ人とて歐洲戦争
の吾々の母國の有様を見え、口く心配りも事もあり
まゝに吾々が「ヒントラー」のおかげでドイツ国は益々栄
え、すくなく世界の強國の中にあけられるようになったことを
非常に喜んで居ります

又今この新しいドイツ青年代表者を日本に送ることを

迎へるの幸を非常に喜んでゐます
願はくは日本とドイツとの協定によりて、又相互青年
の訪問によつて東方にも西方にも平和の礎がまゐり
固くなり、このことを、日本もドイツも一にたつて世界
の平和を永遠まで守るやうに今日新たに親友たる
協定を結ばせよう



91100-16

128



91100-16

127

I-0461

0078

挨拶

独逸七百萬ノ若人ヲ代表スルヒントラー青年諸君一諸君ニ對シテハ、今秋田十萬ノ青年ヲ代表シラハカナル友情ノ挨拶ヲ捧ゲマス

北歐ゲルマンノ森林中歴史ヲ守テ大戦后ノ復興ヲ目指シ苦難ノドン衣カラ奮ヒ起テル獨逸國民ガ燃ル祖國復興ニ終ズルテ是ヲ相アドルヒントラー閣下指導サノ下ニ大ゲルマン民族國家ヲ建設スベク勉メテ努力ヲ捧ヒツ一勇敢ニ進ミ行ク様ハ正ニ偉大ナル巨人ノ姿シノモテアリマス ソレニテハ一ゲントノイッ 蘇ル所ハス諸君ヒントラーユーゲントノカ強キ行進曲ガ奏テラルデアリマシタ其ノ狀ヲ見、其ノ聲ヲ聞キ吾々ハ絶大ナル讃仰ト後頼ヲ

捧グルモンデアリマス

ア、若キカト信頼ニ充ラルヒントラーユーゲントノ諸君ニ吾々ハ諸君ヲ盟友トスル事ノ喜ヲ世ニ向テ誇ラカニ外ハコトカあるルデアリマス

今ヤ所國ハ世田々ノ新秩序ヲ建設スベク一切ノ障害ヲ排除シ断チテトラウヒツ、在リマス此ノ大理想ヲ成スベキ全責任ハ吾等兩國ノ双肩ニカッテ居リマス

西ニ諸君東ニ吾等相携ヘテ世界文化ヲ指導シ正ニキ也 爾等ヲ建設シヨウデアリマセ、カ、吾々ハ今次事ニ至ニ際シ貴國政府ガ吾々國ニ示サレテ友情ヲ識ンテ居リマス ソレニ對シテ貴國民ニ對シテ獨逸キ感謝ト友好ノ情ヲ抱キテ居ル時ニ諸君ヲ此ノ地ニ迎エソシテ今夕親ニ相談シ接會ヲ與ヘシ茲ニ諸君及貴國民ニ對スル友情ヲ



91100-16

130



91100-16

129

I-0461

00:19

示スミトノ出来マシタ事ヲ尋ク老学ト存シコエ
秋田縣青年団々員代表
打川孝道

(8)



91100-16

131

I-0461

0030

鹿角郡毛馬内町 カトリック教

宣教師

ウヰルヘルム・ポール

友よ独一人よ最も尊敬すべき客人よ 私共は皆様を
心から歓迎します。更に祖國独一人に生れた一人として
カトリックの人民としてほんとうに諸君を心から御迎へし
ます。たとへ此の室は狭くとも此の時間は短くとも
然し世界中を被る位の赤心を以て諸君を歓迎します
私達此の歓迎の催しは私達の心の中を花悦を充分に
は表はして居ります。只旅の疲勞をこれ以上感ぜ
させぬため寛いお茶の會に過ぎません。然し
私は確實に申上る事が出来ます。と言ふのは此の
短くも期待した一時間の比の輝きです。半年か
から其の友誼を放つておたこととあります。此の地方が未だ

雪に覆はれた時に諸君来朝の快報が山嵐の如く
我等の心を襲ふたのである。その時から私達の心は
増進した。若い生命の固有の法則に依り増進した。い
ある即ち生長し、進むべき強められ、而して只今
明るく熱誠に燃えあがっている。であります。私は此
の感激の記憶と共にその欣びも此の後何十年と持ち
て續けることを断言して憚りません。何故ならば
於ては独自の忠誠と日本の友誼とがピッタリ合し、盟
合の兄弟の誼を結び、そしてそれを以て永遠なる一
つからであります。

今迄は國々の巨頭達や政治家達相互に訪問し合
て國交をよりよく親交させる慣例であつた。十年程
に或國は日本と親善を一番深くさせるため船一隻



91100-16

133



91100-16

132

I-0461

0031

にく形を一杯積んで昇り越してと水を小學校や幼稚園
で日本の青少年に観覧させた然し之は現今の生き
した個人的な實現と比較して如何なるものか

此度青年は青年に向つて高き絶叫を以てその強
くを誓ふ期待してゐるのである「ハイル」と萬歳が
向ふ方は独逸の全土を被ひこちうでは日本島帝
國の隅々まで行き亘つてゐるとしてその叫びは山とぶ
つかり谷底に響きこみまゐる内心の熱誠は明
るい眼に燃え立つ蒼々しい顔の赤みと反射してゐる
此の光に於ては只一つ和等を離すものがあるそれは
言葉である然し此は友誼と忠誠と共同目的に対す
る熱誠とは無數の橋をかけとして形と色を探しと水
からその光を以て皆に分り得る世界語即ち愛の言

葉、心の話で又心と心とがふれ合つてゐるのである 葉
通の歓迎會の例外の一つは毛馬内のと水では座います

只今諸君のありやるところは只五ヶ年の町でしかありま
せんそれにも拘りこころは独乙の樂は耳に響きこころ
教令地よりもよいでせう

歌い手は私の所で中夢課程を修得する生徒達で
ある彼等は義勢としての英語のみ独乙語も習
つてゐる下度此等の事情に依てこちらの園上段が
独乙語の歓迎會に諸君を御招待申上げたのであり
ます和個人として満足の一つも御座いますそれは和
等は祖國から遠く而も永く離れてゐるにも拘
らずの生れた祖國の血と土とから決して遠ざかること
がないと言ふ証拠をお目にかけることが出来ることであ



91100-16

135



91100-16

134

I-0461

0032

リます諸君御承知の事でありませう世界の果まで
クリストの言葉を運ぶ持つと言ふカトリックの世界的
目的はこちらの國と和を求むた然し十七年間のうち
らの滞在の間此の本務以外にいづく我國と我々
民の爲めに尽し得る余地がありまじき即ち独乙の文
明の宝をこれを歓迎する吾民に傳へることであり
マードとルに就て歸國した上カトリック信仰の独乙
のバイオニアとていつて独乙の文明のバイオニアでもあ
りまして丁度日本國民と最も望み現約を結ぶのであ
ります之は今日に於てこそ如何に意義深いことと
で御座いまするか、極言すればかねてよりの總統の
警戒の聲と

永くは續くドナルドの望みと意と

境に知る程廣い支那地方に起る日本の
砲声のといふると、殉教者の尊い血にそがれ
スペインの工と、それ等皆姜(用)意ある人皆ソウエイト
の地獄の針路に就して共にする様天地に切望して
あるのであります、これに以て私の歓迎の辞をハイル
に代へることに致しまして、そのハイルは諸君に諸
君の代表する所にて又私達の列と昔に同じ精神で
進行する人々に呼びかけませう

- ハイル独乙國
- ハイル日本國
- ハイル伊太利國
- ハイルスペイン國
- ハイルヒットラーとその青年



91100-16

137



91100-16

136

I-0461

0033

拜啓 昨業務あまた忙の所には、はたしなさい書面を
 呈上いたしました誠には思ひます、一通り
 内目通し下さる様願ひ申上ます、
 さて私は二十才の一青年で座います、現在北
 京にあり、近頃の新開を拜見を致し、
 友邦獨逸は現在の我が国の様な立場におき、
 思ひます、それゆゑ私は我々の日本にあり、
 心配してゐる如く友邦獨逸国民も自国の事を思ひ、
 日夜心配してゐる、同じ立場に置かれた
 獨逸青少年の心配を思ひ、同盟国の日本の一青年
 として、其に力をつけて生きて行きたいと思ひ、拙者も、
 あります、私の心から叫び聲のあります、
 一な旨



91100-16

138

通り下さいます、もし我が国に害をなすものは、
 い様に思ひ、誠には、手数を、おす、
 清々とした獨逸の青少年に、
 思ひ、願ひ申上り、次第に、
 もしも文の拙く、
 様々、
 此のまゝ、
 獨逸青少年に、
 此のまゝ、
 先づは、

敬具

北京後門外鉄廠六號

菅野義雄



91100-16

139

I-0461

0034

我が常は敬愛する
友邦獨逸青少年諸兄に、

私は御存知の如く東洋の一角に根を下してゐる
日本國民の一員、一青年が御座ります。私は
常に自らの新聞を初め幾多の報道
機関によつて
貴國の事や諸兄達の生活の一端を知
事が出来ず、知れば知るほど諸兄達の
發奮と其の姿に、熱火の如く燃えてゐる
貴國心に常に感歎せざるにはいられず、御座ります。



91100-16

140

I-0461

0085

新聞やニュースの報ずるところにより、
貴国も今、非平時に際會してあり
ます。我が日本も今、日支事變の爲めに
非平時です。たが私は自国の過去の歴史
より觀て
生きたる理想と理念を内部に失はざり
ものは生長するほかはない、其れは生命
(国家の生命)の種子である、機會毎に
伸びるの如く、と一聲
諸君達に申し上げたい、
例へいかざる非平時に際會しても理想と
理念に對する獻身精神と堅忍不拔の



91100-16

141

持久精神とを失はざる限り、この非平時は
我々を強く強くするほかはないと信ずるのみ、
我が日本国民は今、日支事變の爲め幾多
の困難に直面してゐる、例へいかざる
困難が来ようとも我々は少しも怯んでは
東洋永遠の平和確立の爲め、又は漁民の
苦しみを受けつゝある支那四億の民衆を救ひ
上げる爲めには最後の貢とするまで戦ふ決心が
あります、人類の敵とするものには断乎として
鐵槌を打ちこむ決心を持っております、
人道の旗を高掲して国家の理想の爲めには
無我獻身の精神を持つて一路国家の理想



91100-16

142

I-0461

0036

4

達成のあり邁進して行きます。
我が常に敬愛する

獨逸青少年諸兄よ、

困難を避けて遊惰を喜ぶやうになつた時その
民族の衰頹が始まる事を心に刻み困難は人間
を何處をも一層上へ上げる恩恵である事を
常に思い、一路全人類の永遠の平和確立のため
邁進しやうとありますんか
後筆するかう

ヒットラー總統閣下を初め貴国及び貴国民の健康と
発展を多岐に及ぶ日本より神にお祈り申し上げます
サヨナラ

獨逸青少年諸兄へ、

日本の一青年より、

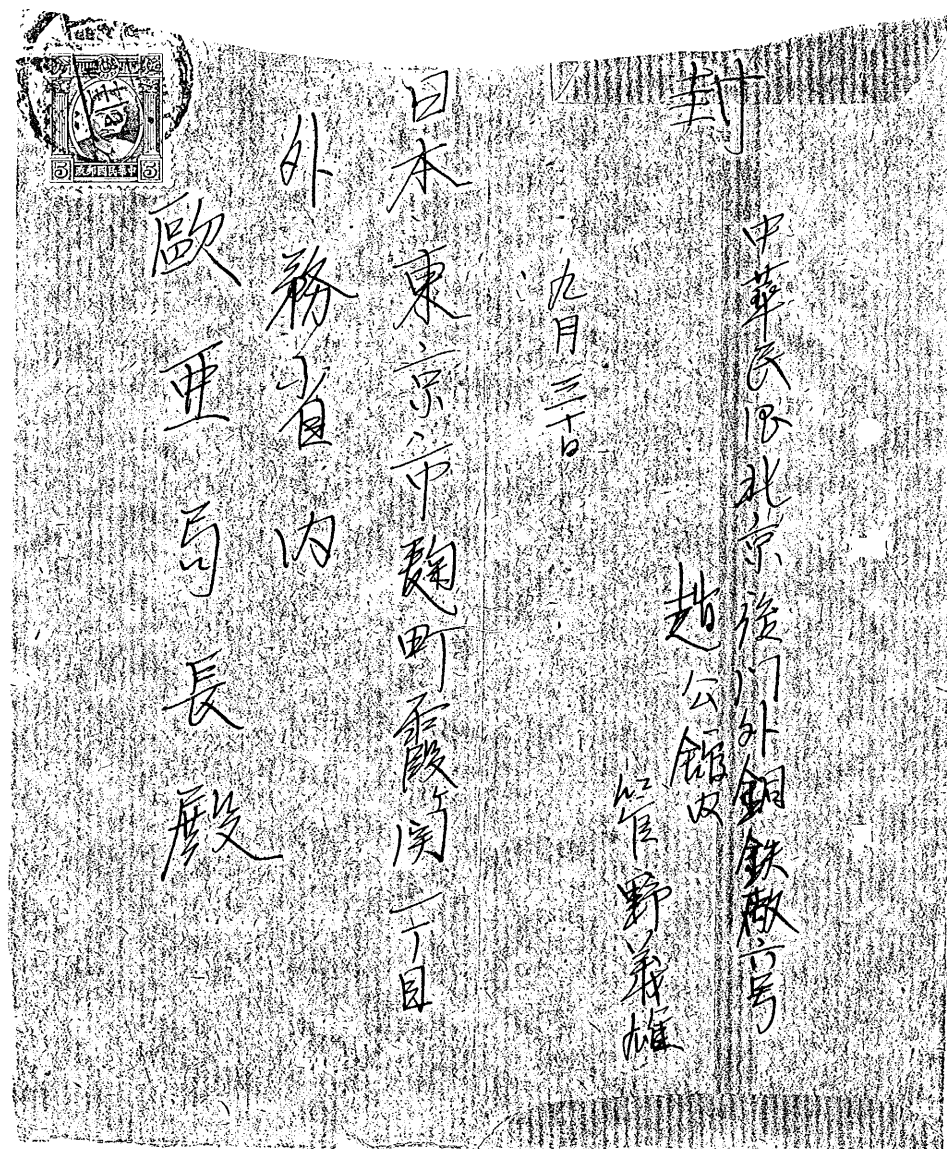


91100-16

143

I-0461

0037



I-0461

00:00

電信案	電信課長	主 管 主 任 第二課長	昭和13年9月15日 起草
度	後藤總領事代理	宇垣大臣	
尚船賃、便宜貴館ニ於テ御立替	在 上 海		
当方へ請求アリケン	件 宛	名 件 録 記	
	支那ニ在ル「ヒットラー」		
	ユーゲン トルキョー招待ノ件		
	第 一 〇 四 號		
	日獨青少年交歓ノ為「ヒットラー」ユーゲン トルキョー		
	名目下未朝各地視察中ナル處此ノ機「曾ヲ利		
	用シ支那ニ在ル「ヒットラー」ユーゲン トルキョー代表外ヲ		
	(分類)		
	電信案	外 務 省	

S

91100-16

145

(原議用紙乙)

電信案	電信課長	主 管 主 任 第二課長	昭和13年9月15日 起草
度	後藤總領事代理	宇垣大臣	
尚船賃、便宜貴館ニ於テ御立替	在 上 海		
当方へ請求アリケン	件 宛	名 件 録 記	
	支那ニ在ル「ヒットラー」		
	ユーゲン トルキョー招待ノ件		
	第 一 〇 四 號		
	日獨青少年交歓ノ為「ヒットラー」ユーゲン トルキョー		
	名目下未朝各地視察中ナル處此ノ機「曾ヲ利		
	用シ支那ニ在ル「ヒットラー」ユーゲン トルキョー代表外ヲ		
	(分類)		
	電信案	外 務 省	

S

91100-16

144

記

計會 13.9.17 付受

I-0461

0039

公 信 案	外 務 省	記三十名ニ與ヘラレタルト同一待遇ノ下ニ無償 テハ友記御ヲ承ノ上 星裏ニ文部省ヲ通シ前 方面旅行ニ隨行セラルト決定シタルニ付 ニ招待シ前記訪日 獨逸本國青年團ノ関西 レール爲 在支ヒットラー、ユーゲント 代表 名ヲ本邦 少年ノ対日親善感情又對日認識ヲ感得セ ケントヲシテ實地ニ日本ヲ知ラシムル一方本國ノ青 （獨逸）
-------------	-------------	---



91100-16

147

I-0461

發信用		執務用	
主信	1	1	2
附	甲		
	乙		
	丙		
屬	丁		
備考			

縣案 分類 1.10.0.4

主 管 主 任	歐亞局長 第二課長	主 任	第二課長
歐二 普通 第一一八號	昭 和 拾 陸 年 九 月 拾 六 日 附 屬	淨書	正校（原稿） 昭和13年9月15日起草
受 信 人 名	喜安 鐵道次官	名人信發	堀内 次官
件 名	支那ニ在ルヒットラー、ユーゲント本邦招待ニ際シ右一 行ニ無償乗車證發給方依頼ノ件	名件録記	（獨逸）
日 獨 青 少 年 交 歡 ノ 為 ヒットラー、ユーゲント三十名	來朝目下各地視察中ナルヲ好機トシ在支獨 逸人ノ對日認識啓蒙ノ為特又在支ヒットラー、ユー	外 務 省	



91100-16

146

46

23

(記)

公
信
案

外
務
省



91100-16

149

Erick Voigt	二十一才
Herbert Mueller	十九才
Memanda Volbach	十九才
Fritz Naerst	十九才

公
信
案

外
務
省



91100-16

148

乗車証(二等) (一、上、下、中、送付)
給方御取計相煩度
追テ本件ニ関シテハ本省寺岡事務官ヨリ貴省係官ニ口頭
依頼ノ次第ナル由ナルニ付本省事務官ヨリ
記

一、代表氏名 及 年齢

Kurt Fuedlgraf	二十四歳
Helmuth Koch	二十三歳
Karlheinz Knabe	"
Helmuth Eggers	二十二歳
Leo Jurauff	二十一歳
Wolfgang Kessler	"
Herbert Froemel	二十歳
Harald Leng	十九歳

I-0461

0091

I-0461

公 信 案	二、旅行地									
	長崎、廣島、江田島、神戸、大阪、東京都、奈良、名古屋及鳥羽									
外 務 省	三、旅行期間 十月									
	十月四日乃至同二十日									
以上										
S 91100-16 150										

0092

歐二普通第一一八號

昭和十三年九月十六日

外務次官 堀内謙介

鐵道次官 喜安健次郎 殿

支那ニ在ル「ヒットラー、ユーゲント」本邦招待ニ
際シ右一行ニ無賃乗車證發給方依頼ノ件

日獨青少年交歓ノ爲「ヒットラー、ユーゲント」三十名來朝目下各
地視察中ナルヲ好機トシ在支獨逸人ノ對日認識啓發ノ爲將又在支「
ヒットラー、ユーゲント」ヲシテ實地ニ日本ヲ知ラシムル一方獨逸
本國ノ青少年ノ對日親善感情及對日認識ヲ感得セシムル爲在支「ヒッ
トラー、ユーゲント」代表十二名ヲ本邦ニ招待シ前記訪日獨逸本國
青年團ノ關西方面旅行ニ隨行セシムルコトニ決定シタルニ付テハ左

記御了承ノ上爰ニ文部省ヲ通シ前記三十名ニ與ヘラレタルト同一待
遇ノ下ニ無賃乗車證（二等）御發給ノ上當方ニ送付方御取計相煩度
追テ本件ニ關シテハ本省寺岡事務官ヨリ貴省係官ニ口頭依頼ノ次
第アル由ナルニ付爲念申添フ

一代表氏名及年齡

Kurt Fuehlgröf	二十四歲
Helmuth Koch	二十三歲
Karlheinz Knabe	二十二歲
Helmuth Eggers	二十一歲
Leo Ivanoff	二十一歲
Wolfgang Kessler	二十歲
Herbert Froemel	二十歲
Harald Lenz	十九歲

CH 本標準規格 B5

91100-16

152

CH 本標準規格 B5

91100-16

151

I-0461

0093

ニ 旅行地	Erich Voigt	二十歳
	Herbert Mueller	十九歳
	Menander Volchock	十九歳
	Eriz Nauert	十九歳
ニ 旅行期間	長崎、廣島、江田島、神戸、大阪、京都、奈良、名古屋及鳥羽	
	十月四日乃至同二十日	

以上

外務省

日本標準規格B



91100-16

153

I-0461

0094

歐亞局

官文第二八四八號

昭和十三年九月廿一日

鐵道次官 喜安健次郎



外務次官 堀内謙介殿

九月十六日歐二普通第一一八號ヲ以テ御申越相成候在支獨逸青少年團出行ニ對スル無賃乗車證發給方ニ關スル件了承右ハ左記ニ依リ發行加封致候間御查收相成度

記

氏名

カルト、フエルグラフ

ヘルムート、コツホ

カールハインツ、クナーベ

ヘルムート、エツガース

レオ、イハノフ

ヴォルフガング、ケツスラー

ハーバート、フローメル

ハラルド、レンス

エリヒ、フォイグト

ハーバート、ミューエラー

メナデル、ホルコツク

フリッツ、ノイエルト

自十月四日 至十月二十日

省線一般

二等

四等

三區

三期

級

間

間



91100-16

155



91100-16

154



I-0461

0045

昭和十三年
自九月十三日
至十月二日

ヒットラー・ユーゲント派遣團東京滞在日程

日獨青少年團交驛會



91100-16

156

I-0461

0046

ヒットラー・ユーゲント派遣團東京滞在日程

月 日 (曜)	午 前	中 食	午 後	夕 食	夜
九・一三(火)	上野驛着 七・五〇 (休 養)	(於 宿 舎)	(休 養) (在京滞 H・Jとの會合)		宿 日本青年館 泊
九・一四(水)	明治神宮外苑聖徳記念繪畫館見學 至自 一〇・〇〇 獨逸展覽會見學 至自 一一・〇〇 三〇〇	日獨文化協會招待會 (於 精養軒) 至自 一二・〇〇 午	陸軍病院訪問 (第一衛戍病院) (正醫學校附屬病院) 至自 一二・三〇 三〇〇	(於 宿 舎)	講 話 (於 日本青年館) 至自 九・七〇 〇〇〇
九・一五(木)	遊就館並に日本刀鍛錬見學 至自 一・九〇 三〇〇	文部大臣招待會 (於 學士會館) 至自 二・〇〇 午	古武道見學 (於 國民體育館) 至自 三・三〇 四〇〇 デパート見學 (三越) 至自 五・四〇 〇〇〇	(於 宿 舎)	(休 養)

S 91100-16 (1) 157

I-0461

00:00

月日(曜)	午前	中食	午後	夕食	夜
九・二六(金)	東京府養正館跡に 有栖川記念公園見學 至自 九・〇〇 一・〇〇 相撲見學 (於 出羽海部屋) 至自 一・一〇 一・三〇	東京市長招待會 (於 後樂園) 至自 三・〇〇 三・〇〇	(休 養)	(於 宿舍)	(休 養)
九・二七(土)	(休 養)	(於 宿舍)	海軍館見學 至自 二・〇〇 二・〇〇 日獨伊繪畫展覽會見學 (於 女子會館) 至自 三・一〇 三・一〇 東京日日新聞社歡迎會 (於 軍人會館) 至自 六・三〇 六・三〇	(於 宿舍)	大島へ出帆 芝浦發 一・〇〇
九・二八(日)	五・〇〇 大島着 三 原 山 登 山				(大島観光ホテル) (第一ホテル宿泊)
九・二九(月)	(休 養)	芝浦發 八・三〇 八・〇〇			

S 91100-16

—159—

月日(曜)	午前	中食	午後	夕食	夜
九・二〇(火)	東京市高輪臺小學校 見學 至自 一・〇〇 九・〇〇 獨逸學園、ハイム見學 至自 一・一〇 一・三〇		東京帝國大學航空研究 所見學 至自 三・二〇 三・〇〇 第一高等學校見學 至自 四・三〇 四・一〇	(於 宿舍)	在留獨逸人との會合
九・二一(水)	東京陸軍幼年學校見學 至自 一・九〇 二・〇〇	陸軍大臣 招待會	東京女子高等師範學校 見學 至自 三・二〇 三・〇〇 講道館見學 至自 四・三〇 四・〇〇	外務大臣招待 お茶の會 (於 官邸) 至自 六・五〇 六・〇〇	東京朝日新聞社歡迎會 (於 日比谷公會堂) 至自 八・六〇 八・〇〇
九・二二(木)	東京驛發 八・五五	横濱	見學		(海濱ホテル宿泊)
九・二三(金)		横須賀見學			(同)

S 91100-16

158

I-0461

00:48

月日(曜)	午前	中食	午後	夕食	夜
九・二九(木)	東京帝國大學見學 至自 九・三〇〇〇 雅樂見學 (於宮内省) 至自 一一・〇〇〇〇	(於宿舍)	(休養)	(於宿舍)	都新聞社歡迎會 (於日比谷公會堂) 至自 九・六・五〇〇〇
九・三〇(金)	上野驛發 七・四八 内原滿蒙開拓青少年義勇軍訓練所及水戸市見學 上野驛着 六・四九			(於宿舍)	(休養)
一〇・一(土)	休養			(歌舞伎見學) 自 五・五・五〇〇〇	
一〇・二(日)	東京驛發 一〇・三〇 (退京)				

S 91100-16 161

月日(曜)	午前	中食	午後	夕食	夜
九・二四(土)	鎌倉見學				(鎌倉ホテル宿泊)
九・二五(日)	(休養)	箱根	見學		(箱根ホテル宿泊)
九・二六(月)	(休養)	鎌倉駅(光) 一二・一二 新橋驛着 一二・三		(於宿舍)	(第一ホテル宿泊)
九・二七(火)	東京中央卸賣市場見學 至自 九・三〇〇〇 東京美術學校見學 至自 一二・〇〇〇〇		日本美術院展覧會見學 (於東京府美術館) 至自 一二・〇〇〇〇 東京音樂學校見學 至自 一四・三・〇〇〇〇 ヒットラー・ユーゲン ト派遣團歡迎全國青少 年國聯合大會出席 (於明治神宮外苑) 至自 一四・三・〇〇〇〇	獨逸大使招待晚餐會 伊太利大使招待ふくみ 至自 一四・三・〇〇〇〇	日獨青少年座談會 (於日本青年館) 至自 九・七・〇〇〇〇
九・二八(水)	(休養)	(於宿舍)		(於宿舍)	

S 91100-16 160

I-0461

00:00

分類

Deutsche Botschaft.

Tokyo, September 14th, 1938.

Dear Teraoka San,

With reference to our conversation yesterday morning I am hastening to convey to you the names of the Hitler Youth Delegation from China invited by the Japanese Government to Japan.

The names are as follows:

From Shanghai: Kurt Fuellgraf,
Helmuth Koch,
Karlheinz Knabe,
Helmuth Eggers,
Leo Ivanoff,
Wolfgang Kessler,
Herbert Froemel,
Harald Lenz,
from Tsingtao: Erich Voigt,
Herbert Mueller,
Menander Volchock.

With kindest regards

Yours sincerely

Dr. Brauns.

Mr. Teraoka,

Imperial Ministry of Foreign Affairs,

T o k y o .



91100-16

162

I-0461

0100

決裁後露通下共
再回々人事課

決裁後露通下共
會計課記録

收入支出

昭和十三年九月二十二日起案
昭和十三年九月二十三日決裁

高裁案

在支「ヒットラー、ユーゲント」代表十名乃至十五名ヲ招待シ目下
獨逸ヨリ來朝セル「ヒットラー、ユーゲント」代表ノ京都、奈良方
面旅行ニ隨行セシムルコトニ決裁濟ナル處今般在支「ヒットラー、
ユーゲント」代表十二名ハ左記日程ニ依リ來朝スルコトト相成タル
ヲ以テ之ガ接伴ノ爲歐亞局寺岡事務官及井口佐
奈良縣、大阪府、京都府ニ出張セシムルコトト致度

十月四日

長崎上陸

記

外務省

(日本標準規格B5)

S

91100-16

163

(記)

十月五日

宮嶋着

十月六日

廣島幼年學校見學

十月七日

江田島海軍兵學校見學

十月八日

奈良着

十月九日ヨリ十月十七日迄

「ヒットラー、ユーゲント」奈良、京都旅行ニ

隨行

十月十八日

長崎着

十月十九日

長崎出帆

右仰高裁

外務省

(日本標準規格B5)

S

91100-16

164

I-0461

電信案	御立替方へ請求アリタシ	セラレ度	ル一等船室保留相成リ切符ヲ先方ニ交付	在貴地獨逸領事館トモ御聯絡ノ上ニ行ニ對ス	十月三日出帆ノ泰山丸ニテ來朝スル豫定ナルニ付テハ	旅行ニ隨行セシムルストナリ貴地ヨリハ四名	本邦ニ招待シ前記訪日青年團ノ関西方面
-----	-------------	------	--------------------	----------------------	--------------------------	----------------------	--------------------

S 91100-16 166

(原議用紙乙)

電信案	用シ支那ニ在ルヒットラーユーゲントト代表ヲ	十名目下來朝各地視察中ナル處此ノ機會ヲ利	日獨青少年交歓ノ爲ヒットラーユーゲント三	第 三 號	件 支那ニ在ル獨逸ヒットラー 名 ユーゲント本邦招待ノ件	宛 大鷹島總領事	電送第 24870 號	昭和 13 年 9 月 2 日 午後 2 時 2 分 發	管主 在青島	電信課長
外務省	發 宇垣大臣	名件録記								

S 91100-16 165

昭和 13 年 9 月 2 日 起草

I-0461

分類 1.10.0.4

機密第三〇五六號

昭和十三年九月二十三日

在上海

總領事代理 後藤 鑑

外務大臣 宇垣一成 殿



在支「ヒットラー、ユーゲント」代表本邦招待ノ件

本件ニ關シテハ九月下旬拙電ヲ以テ報告致置タルカ御參考迄一行ノ名簿一部別添ノ通り送付ス

在上海日本總領事館



91100-16

167

別紙添付

歌田局

第三課長

右の如く九月二十三日付の電文に
昭和十三年九月二十三日
歌田局
13.9.20

I-0461

0103

List of the
Hitler-Jugend Delegation to Japan

<u>NAME</u>	<u>AGE</u>
Mr. Kurt F ü l l g r a f	36
Mr. Helmut K o c h	31
Mr. Karl-Heinz K n a b e	16
Mr. Helmuth E g g e r s	16
Mr. Wolfgang K e s s l e r	16
Mr. Herbert F r ö m e l	17
Mr. Harald L e n z	14
Mr. Leo I v a n o f f	17

S 91100-76

168

E

I-0461

0104

公	信	案
第六三二號 往信 一日附貴信官社一二一號ヲ以テ御快諾ヲ得タル次第アル處 前記在支ヒットラー、ユーゲンツト代表ハ記ノ通ニシテ十月九日奈良良着、同九日ヨリ十七日迄本隊ト合同旅行ノコトニ決定シタルニ付右不取敢申進ス 記 (別紙ニ續ク)		
外	務	省



91100-16

170

I-0461

發信用執務用		主信		1		1		2	
附		甲							
		乙							
		丙							
		丁							
備考									

91100-16 169

懸案 分類 I 1.10.0.4

文書課長		文書課發達		昭和拾參年九月廿六日發送済		主		管		歐亞局長		歐二普通		第七八二號		昭和拾參年九月廿六日		附		附屬		正校(原稿)		昭和13年9月22日		淨書		堀内次官		名人信發		名件錄記		日獨青少年交歓ニ関スル件		ヒットラー、ユーゲンツト、派、留、留、滞、日、中、在、支、那、ヒットラー、ユーゲンツト代表ヲ招待シ近畿地方ヲ同行セシムルノ件		協力方ニ并ニ皇親、七月十五日附歐二番面		公		信		案		外		務		省	
------	--	-------	--	---------------	--	---	--	---	--	------	--	------	--	-------	--	------------	--	---	--	----	--	--------	--	------------	--	----	--	------	--	------	--	------	--	--------------	--	--	--	---------------------	--	---	--	---	--	---	--	---	--	---	--	---	--

(13.2.4)

23 66

From Shanghai: Kurt Fuellgraf,
Helmuth Koch,
Karlheinz Knabe,
Helmuth Eggers,
Leo Ivanoff,
Wolfgang Kessler,
Herbert Froemel,
Harald Lenz,
from Tsingtao: Erich Voigt,
Herbert Mueller,
Menander Volchock.
Fritz Namert



91100-16

171

I-0461

0 08

From Shanghai: Kurt Fuellgraf,
Helmuth Koch,
Karlheinz Knabe,
Helmuth Eggers,
Leo Ivanoff,
Wolfgang Kessler,
Herbert Froemel,
Harald Lenz,
From Tsingtao: Erich Voigt,
Herbert Mueller,
Menander Volchook,
Fritz Nauert,

タルニ付右不取敢申進ス
記

外
務
省

(日本標準規格B5)



91100-16

173

I-0461

歐二普通第七八二號

昭和十三年九月二十三日

外務次官 堀内謙介

文部次官 伊東延吉 殿

日獨青少年交歓ニ關スル件

「ヒットラー、ユーゲント」派遣團滯日中在支那「ヒットラー、ユーゲント」代表ヲ招待シ近畿地方ヲ同行セシムルノ件協力方ニ關シ
變ニ七月十五日附歐二普通第六三二號往信ヲ以テ及照會置キタルニ
對シ八月一日附貴信官社一二一號ヲ以テ御快諾ヲ得タル次第アル處
前記在支「ヒットラー、ユーゲント」代表氏名ハ左記ノ通ニシテ十
月八日奈良着、同九日ヨリ十七日迄本隊ト合同旅行ノコトニ決定シ

外
務
省

(日本標準規格B5)



91100-16

172

電信課長

大臣
次官

東亞 歐洲 通商 條約 情報 文書 調查 儀典 文書 會計 秘書官

寫
送
先

分類丁 1/10, 0. 4

昭和13

二八一〇〇 略

上海 九月廿四日前發
本省 廿四日後着

歐

宇垣外務大臣

後藤總領事代理

第二八九六號

貴電第一五〇四號ニ關シ（支那ニアル「ヒットラー・ユーゲント」

本邦招待ノ件）

獨逸總領事館ヲ通シ一行八名（團長「クルト・フルグラーフ」）ニ

對シ十月三日發長崎丸一等切符ヲ送付シ置キタリ尙右立替三百六十

圓御送金ヲ請フ

外
務
省



91100-16

174

I-0461

0:00

歐亞局 第二課長

普通第八九九號

昭和十三年九月二十六日

在青島

總領事 大鷹 正 次

外務大臣 宇垣 一成 殿

會計課長

外務省

「ヒットラー、ユウゲント」代表船賃請求ノ件

貴電御訓達ノ當地「ヒットラー、ユウゲント」代表四名ハ十月
三日出帆ノ泰山丸ニテ神戸ニ向フ豫定ナルガ右船賃合計金貳百
七拾六圓也當館ニ於テ立替支拂置タルニ付御送金相成度人名表
並ニ領收證相添ヘ此段申進ス

在青島日本總領事館

昭和十三年拾月參日 接受

Dr. A

會計課
13.10.4
付受

郵政省
13.10.4

別紙添附

S 91100-16 175

フリッツ、ノアート	(Herr Fritz Naverit)	三十八歳
エーリッヒ、フオクト博士	(Herr Dr. Erich Voigt)	三十四歳
マネンダー、ウルチエック	(Herr Menander Volchock)	十八歳
ヘルムツト、ミューラー	(Herr Helmut Müller)	十五歳

在青島日本總領事館

S 91100-16 176

I-0461

0109

I-0461

九月二十八日 ヒトラー・エーゲンツト歓迎會に於ける大使演説

殿下、閣下並に各位。

茲にかくも堂々と代表されました「ヒトラー」の青年に、私は、たゞにフツヨ

政府と云はず、その大使館と云はず、更に「ヒンリ」の青年」の敬意を

呈するものであります。而してこの敬意は、又「ヒトラー」の青年」の

ミスター、ニクスダオにかくも大多数で歓迎される「日本の青年」

に對して、ミ呈されるのであります。

我々三國の青年の中に、私は、我々の光輝ある將來の象徴と保障

と見出すのであります。この將來の爲に、我々は、今日、我々の堅忍心

を奮行してゐるであります。我々の力が、消耗する時、我々は、その

S

91100-16

177

I-0461

26 Sept. 1938.

BARON SCAMMACCA

Transféré de l'ambassade de St. Pétersbourg à Tokyo, 17 Août.

avec ses meilleurs compliments

Kushiro

九月二十八日、ヒトラー・エーゲント歓迎會に於ける大使演説

又、閣下並に各位。

モ堂々と代表されました「ヒトラーの青年」に、私は、たゞに「フジヨ
云はず、その大使館と云はす、更に「フジヨニーの青年」の敬意を
述べたであります。而してこの敬意は、又「ヒトラーの青年」の
「ニクスダオにかゝる大多數で歓迎される、日本の青年」の
モトに生かされるのであります。

我等三國の青年の中に、私は、我等の光輝ある將來の象徴と保障
とを見出すものであります。この將來の爲に、我等日々、我公、醒め心
を奮起してゐるのであります。我等の力が、消耗する時、我等ハネの

172

91100-16

S

0000

I-0461

0461

希望の炬火も、次の時代に引継がすであります。彼等は、この炬火が到

達せねばならぬ目的の地にまで届けられる事を確信して、我等の後に来

るものがあります。我等は、これに勝る崇高なる使命が、彼等に委ねら

れめと恥るものであります。又我等は、その使命によって、かの防共協定中に

討印された我等三國間の親善が、更に一段と強化され、未来永都に

178

亘つて、繼續されるものなりと知るものであります。萬一、我等に反抗

せんと欲する者あらんか、我等は、我等の理性の強固さに於てのみならず、

我等の力の効果に於て、我等の信念を以て、これに答へるであります。

S

而して、我等が、我等の力の効果を信用するならば、それは一に

正義の上に立脚された力を、我等が欲してゐるからであります。

2)

我等は、武装せざる國長は、得ぬにたるものであります。しかし、

I-0461

0110

又武器を使用する^には、建全をなすは、その武器は何等価値のな
いものとするものである。而して、その使命に信念を有せざる
人とは、その建全ではなからぬ。

『青田春』、三の巻、四と、その建全は歌に記す。

か、独逸の青田春と、か、日本、青田春と、大野等は、イリ染木光
に輝く日、曉をよる。

日本を築く。

独逸を築く。

179

S

91100-16

3)

機密

昭
和
三
年
九
月
二
十
八
日

寫

會機密第七五號

昭和十三年九月二十八日

外務大臣 宇垣 一成

在上海

總領事代理 後藤 鑑 尾 殿

在支「ヒットラー、ユーゲント」渡日船賃
支出ノ件

本件ニ關シ九月下旬貴電ヲ以テ御申越ノ趣了承一行八名ノ上海長
崎間一等船賃（十月三日上海出帆長崎丸）金參百六拾圓也郵送ス
御查收相成度シ

外
務
省

（H）本標準規格 B5

S

91100-76

180

I-0461

0:14

陸軍省

外秘第三〇四號

昭和十三年九月廿八日

神奈川縣知事 半井 清

内務大臣 末次信正殿
外務大臣 近衛文麿殿
文部大臣 荒木貞夫殿

警視庁 北海道庁 大阪府庁 長崎縣庁

各廳府縣長官殿

ヒツトラユーゲント訪日派
遺代表ノ本縣下ニ於ケル動靜

分類 I 1.10.0.4

ニ關スル件

ヒツトラユーゲント訪日
派遺代表

團長 Reinhold Schulte
ラインホルド シュルツェ

外團員廿七名

日獨青少年文驪ノ目的ヲ以テ最ニ末
訪セルヒツトラユーゲント代表派
遺團員ノ中團長以下廿九名ハ本月
二日未縣廿六日迄滞在ノ上東京ハ

名付
石川
田中
山本
佐々木
鈴木
高橋
橋本
斎藤
伊藤
渡辺
山崎
中村
森田
山口
清水
石川
田中
山本
佐々木
鈴木
高橋
橋本
斎藤
伊藤
渡辺
山崎
中村
森田
山口
清水

S 91100-16

182

S 91100-16

181

I-0461

0115

揚ケッルモ本縣下滯在中ニ於ケル一
行ノ動靜ハ左記ノ通りニ有之
此段及申通報候也

記

一 九月廿二日

午前九時廿二分横濱駅着縣市係員
出迎ノ上自動車ニ分乗今九時四十
分神奈川縣廳ヲ訪問和事ニ挨拶ヲ
為シ約廿分ノ後午前十時横濱市野

2

毛山ノ震災記念館ニ至リテ之ヲ見
學シ午前十一時三十分ヨリ午後一
時四十分迄ノ間市内中區山下町水
テルニユীগランドニ於テ市長招
待午餐會ニ臨ミ市吏員其他有力者
ト交驩ヲ遂ゲタリ
次デ午後一時五十分ヨリ二時三十
分迄ノ間横濱公園音樂堂ニ於テ市
内男女中小學校生徒青少年代表ト
兩國々歌合唱裡ニ交驩ヲ遂ゲタル



91100-16

184



91100-16

183

I-0461

0:15

後午後三時二十分市內中區井土
 谷所在昭和絹靴下株式會社ヲ見學
 ノ上午後四時三十一分横濱駅乗鎌
 倉着午後五時海濱ホテルニ入り午
 後六時三十分ヨリ会所ニ於テ知事
 出席ノ下ニテ縣招待晚餐會ヲ催シ
 之ニ臨ミ文驪シテ会ホテルニ宿泊
 ス
 九月二十三日
 一行八午前九時十六分鎌倉駅乗全

S 91100-16 185

九時三十分横須賀駅着横須賀海軍
 鎮守府副官ノ案内ニヨリ軍艦山城
 ヲ見學次ニ海軍病院ニ出征傷病兵
 ヲ見舞ヒ今十一時三十分艦ヲ參觀シ
 タル後水交社ニ至リテ晝食ヲ為シ
 午後一時会所發航空隊ニ於テ少年
 航空隊ノ訓練狀況ヲ見學シタル後
 午後四時ホニ分鎌倉駅着海浜市テ
 ルニ入り会所ニ宿泊シタリ
 而シテ本日ノ見學旅行中横須賀

S 91100-16 186

I-0461

面ニ於テ一行中ノローサルハ佩用
中ノ赤銅製名譽徽章ヲ紛失シタリ

三九月二十四日

午前八時ヨリ今九時三十分迄ノ間

海浜ホテルニ於テ鎌倉ニ関スル講

演ヲ開キ午前十時ホテル着自動車

二分乗シテ鶴ヶ岡八幡宮建長寺長

各大佛等ヲ參觀午後〇時半鎌倉

ノ長尾欽彌氏邸ニ於ケル全氏招待

午餐會ニ出席午後四時頃全氏方弁

々

海浜ホテルニ歸還今所裏海岸ニ於

テ地引網ヲ見物シタル上今所ニ宿

泊シタリ

四九月二十五日

連日ノ疲勞ヲ醫ス為メ鎌倉海浜水

テルニ於テ終日休養シタリ

五九月二十六日

午前中海浜ホテルニテ休養シ午後

一時二十一分鎌倉駅第一回元氣ニ

テ東京ニ向フ

S 91100-16

188

S 91100-16

187

I-0461

0118

公	信	案
ル	フ	ト、致度
キ	ニ	付テハ
御	差	支ナキ
限	リ	右一行、見
江	田	島海軍兵學校ヲ訪問、見學セシム
ネ	ル	モリナル
建	布	一行ヲ對シテ、来ル十月七日
シ	メ	本邦ニ對スル正シキ認識ヲ得セシメ
訪	日	青少年團、關西方面旅行ニ隨行セ
名	シ	ヲ本邦ニ招待シ別添日程ニ依リ前記
ユ	ー	ゲント代表十二名（上海ヨリ八名、青島ヨリ四



91100-16

190

I-0461

主信	發信用	執務用
主	1	1
附	甲	其儘送付
乙		
丙		
丁		
備考	分類 I. 1. 10. 0. 1. p	

文書課長	文書課發後昭和拾參年九月廿八日發送済	主	歐亞局長
管	主	主	主
歐二	普通	第三五四號	昭和拾參年九月廿八日附
山	本海軍次官	堀内外務次官	
在	支ヒットラー・ユーゲン	ト本邦訪問ニ際シ便宜供與方依頼	
日	獨青少年交歓、爲獨逸本國ヨリヒットラー		
ユ	ーゲン	ト派遣團来朝シ目下各地視察中ナ	
ル	處此、機會ヲ利用シ支那ニ在ルヒットラー		

(12.7)



91100-16

189

公
信
案

外
務
省

學ニ関シ便宜供與方御配慮相煩度
此段御依頼申進ス

(別添日程表壹部其儘送付ノコト)



91100-16

191

I-0461

0120

兵庫縣・奈良縣・大阪府・京都府ニ出張セシムルコトニ決裁濟ナル處江田島海軍兵學校及廣島幼年學校見學ノ爲廣島縣立寄ノ必要アルニ付同縣へ出張併セテ御許可相成度

外
務
省



91100-16

193

昭和十三年九月三十日起案
昭和十三年九月三十日決裁

高裁案

在英ヒットラー・ユーゲント代表十二名ヲ招待シ目下獨逸ヨリ末朝セルヒットラー・ユーゲント代表ノ京都、奈良方面旅行ニ隨行セシムルコトニ決定、右一行接伴、爲欧亚局寺岡事務官及井口雇ヲ長崎縣、

外務省



91100-16

192

(11)

會計
13.10.1
付愛

寫送先

東亞米通條約商情調查人儀典書計會文祕書官

大臣 次官

電信課長

全第 I 1.10.0.4

昭和13 二九〇二五 略 青島 十月三日後發 本省 三日後着 歐

近衛外務大臣 大鷹總領事

第七五九號

貴電第三二六號ニ關シ（支那ニ在ル「ヒットラー、ユーゲント」招待

ノ件）

「ヒットラー・ユーゲント」代表四名三日出帆ノ泰山丸ニテ渡日セ

リ

尙一行ハ神戸上陸ノ豫定ニ付便宜給與方御手配請フ（了）

外務省



91100-16

194

24

昭和十三年十月三日
青島に於ける
「ヒットラー・ユーゲント」
代表四名の渡日
に關する件
（了）

I-0461

0122

電	信	案
外	務	省
アリタルニ付内司上陸ニ変更ニ方電報ニ置 ケリ		

S

91100-16

198

(原議用紙)

(分類)

電	信	案
外	務	省
山田政ニ課長ヨリ 主月島ヨリノ四名ハ三日泰山丸ニテ出ルセル處 神戸上陸ノ豫定ナル旨總領事ヨリ電報		

電送第	25891	號
昭和	13	年
月	10	日
時	8	分
宛	長崎市 平野屋旅館 寺岡事務官	
件	在支ヒットラー、ユークン	
名	1件	
第	號	
名件録記	發掘内次官	

S

91100-16

197

3

電信課長 主任 昭和 年 月 日 起草

電信課長

發電係

昭和

年

月

日

起草

3 71

I-0461

0:24

電信寫

龍崎 二九〇三五

略

青島 本省

十月

三日

午後

三時

發

近衛外務大臣

大廳總領事

第七五九號

貴電第三二六號ニ關シ（支那ニ在ル「ヒットラー・ユーゲント」招待

ノ件）

「ヒットラー・ユーゲント」代表四名三日出帆ノ泰山丸ニテ渡日セ

向一行ハ神戸上陸ノ豫定ニ付使直結與方御手配諸フ（了）

[S]

91100-16

199

I-0461

0125

歐亞局長

第二部長

外山

歐
13.10.4
三

(森市橋)

官房第五〇三九號ノ二

昭和十三年十月四日

外務次官 堀内

謙介 殿

海軍次官 山本 五十



在支「ヒットラーユーゲント」一行海軍兵學校見學
ノ件回答

歐二普通第三五四號御依頼首題ノ件許可セラレ關係ノ向ニ通知セシメ置
候條御了知相成度

(終)

海軍



91100-16

200



I-0461

0126